



●表紙について

竹田印刷の事業が今後も社会に貢献し発展していくことをコンセプトにデザインし、街や地域社会の彩りを広がりあるカラフルな網点のドットで表現しました。



印刷資材から製造工程までの全てで環境に配慮されていることを示します。



印刷時に有害な廃液が出ない水なし印刷方式で印刷しています。



インキ中の石油系溶剤を全て排除し、植物油(大豆油)に切り換えた環境配慮型水なしVOCフリーインキで印刷しました。
※ VOC (揮発性有機化合物: Volatile Organic Compounds)



管理森林から伐採した木材を使用して自然森林を守っています。

色覚の個人差を問わず、できるだけ多くの人たちが見やすいような表示を配慮しました。

トップメッセージ	1
竹田印刷グループのCSR経営	2・3
●特集	
1. ISO27001認証取得	4・5
2. 拡大を続けるネクスト・イノベーション	6
グループ企業の活動	7
〈TOPICS〉各事業部の主な活動	8・9
●[組織統治] CSR概要／株主・投資家とともに	
コーポレート・ガバナンス／内部統制	10・11
IR活動	12
●[公正な事業慣行] サプライヤー様とともに	13
●[消費者課題] お客様とともに	14・15

編集方針

竹田印刷は事業活動の報告書を昨年、「CSRレポート」として刷新し、より多くのステークホルダーの皆様に当社を知っていただけるよう制作・発行いたしました。

おかげさまで多くの皆様より高い評価をいただき、さらにレベルアップした報告書の制作をめざし、編集いたしました。

当社の基幹事業である印刷事業は、市場が大きく変化しています。2015年度の当社の活動にもその影響はおおび、印刷事業や半導体マスク関連事業に続く新事業への挑戦は年々活発になっています。

また同時に印刷事業では、お客様から重要な情報をお預

●[労働慣行] 社員とともに	16・17・18
●[人権] ダイバーシティとワークライフバランス	19
●[コミュニティ] 地域社会とともに	20
●[環境] 環境活動	
環境マネジメントシステムの状況	21
竹田マネジメントシステム基本方針	22
環境負荷の全体像	24
環境保全の状況	24・25・26
印刷物製造上の環境対応	27
竹田印刷の環境認定状況	28
会社概要 (Company Profile)	29

かりして、加工します。その情報管理についても重要な課題として捉え、2015年度にはISO27001 (情報セキュリティマネジメントシステム) の認証を取得しました。

このようにさまざまな当社の活動と今後の向かうべき方向をできるだけ多くの方々に知っていただけるように、分かりやすく見やすいように配慮しながら、報告書を作りました。

ご一読いただきますとともに、当社の今後の活動の参考とさせていただくため、添付のアンケート用紙をご利用いただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

◆ 報告対象組織
竹田印刷株式会社
(一部、竹田印刷グループの情報も含んでいます。)

◆ 報告対象期間
2015年4月1日～2016年3月31日
(一部、期間外の情報も含んでいます。)

◆ 参考にしたガイドライン
環境省「環境報告ガイドライン2012年版」
「ISO26000 (社会的責任に関する手引)」

◆ 発行時期
2016年6月
(次回発行予定2017年6月)

◆ 発行責任部署およびお問合せ先
竹田印刷株式会社
経営統括本部 CSR推進部
TEL: 052-871-6460

誠実な姿勢を貫き、 広く社会から信頼される企業グループへ

はじめに、今年の4月に発生しました熊本、大分における地震により被災された方々に、心よりお見舞いを申し上げます。各種報道にて被害の状況を見るにつけ、今回の災害の甚大さを痛感しております。被災された方々が一日も早く心穏やかに過ごしいただけるよう、被災地の復興をお祈りいたしております。

昨年のトピックスといたしまして、10月に竹田印刷は情報セキュリティマネジメントシステムの国際規格「ISO27001」の認証を取得いたしました。創業以来、印刷事業を営んでおります当社には、お客様の大切な機密情報や個人情報など、大変多くの情報が集約されてまいります。これらの情報資産を大切に管理していく上で、情報セキュリティ体制の構築は必要不可欠であり、当社にとりましては社会的使命であります。今回の認証取得をベースにした今後の運用に加え、「Hard+Soft+Heart」でお客様満足度No.1企業を目指すという経営理念に従い、市場ニーズに合った設備投資・技術力の継続的向上・お客様の立場に立った提案活動を通して、さらなる体制強化を目指してまいります。

情報セキュリティ体制と長年にわたり培われたお客様からの信頼により、お客様業務を当社が請け負うBPO (ビジネスプロセスアウトソーシング) 事業へのご依頼が増えてまいりました。カタログなどの広告宣伝物を当社がお客様に代わり、受注・出荷業務を行うと共に、きめ細かい在庫管理を行うロジスティクス、市場ニーズを捉えたイベントの企画・運営、広告宣伝媒体として急成長を続けるネット広告の代理店、ストレスチェック代行など、事業の領域を広げております。今後も当社の積極果敢な挑戦にご期待ください。

グループ会社におきましては、株式会社光文堂が創業70周年を迎えました。印刷機械・資材の企画販売を行う光文堂は、全国に拠点を有する印刷関連総合商社として、今後もグループ経営になくてはならない中核子会社であります。また、上海竹田包装印務技術有限公司は、海外事業における旗艦拠点であります。2003年にグループ初の海外拠点として設立されて以来着実に事業を拡大し、昨年度から連結決算の対象会社となりました。海外事業が業績に直結するという意味において、当社グローバル経営の新たな幕開けとなる意義深い出来事でありました。

その他、ダイバーシティ (多様性) やワークライフバランス (仕事と生活の調和) の実現も重要な経営課題として認識しております。女性社員が結婚や出産後も長く勤めることができる人事制度や女性独自の感性を発揮できる職場環境の整備、次世代を担う社員のための教育や今後の海外事業を見据えた語学教育など、様々な人材育成を行っております。

誠実な姿勢を貫き、広く社会から信頼される企業グループを目指して日々事業活動を行っておりますが、このレポートをご一読いただき、お気づきの点がございましたら、忌憚のないご意見ご感想をお寄せいただければ幸いです。今後とも引き続きご支援ご指導をよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

山本 真一



竹田印刷グループのCSR経営

経営理念

●「Hard + Soft + Heart」

Hard

活動を支えるすべての設備を合理化し、高品質と高付加価値を実現します。

Soft

高い技術力と情報力を活かした創意あふれる提案で、お客様の抱える課題を解決します。

Heart

お客様の感動やよろこびをいつも考え、心をこめた製品やサービスをお届けします。

Policy

●竹田印刷グループの5つのPolicy

- 1 Presentation**
お客様のためにその先を見据えた **提案**
- 2 Flexible**
お客様のご要望を実現する **柔軟性**
- 3 After support**
本当に満足していただくための **アフターサポート**
- 4 Quality**
常に最高のクオリティを求める **品質**
- 5 Cost performance**
「ベストバランス」を実現する **コストパフォーマンス**

方針

●TMS(竹田マネジメントシステム)基本方針

- 1 品質方針 (ISO9001認証取得)
- 2 環境方針 (ISO14001認証取得)
- 3 情報セキュリティ基本方針 (ISO27001認証取得)

●個人情報保護方針 (JIS Q15001 認証取得)

行動規範

●竹田印刷グループ行動規範 — 信頼される企業であり続けるために—

- 1 コンプライアンス実現のために「責任ある行動をしよう」
- 2 顧客満足の実現のために「お客様に感謝しよう」
- 3 働きがいのある企業風土づくりのために「仲良く朗らかに元気よく働こう」
- 4 グループの総合力発揮とさらなる発展のために「社運発展のためお互に協力しよう」
- 5 よき企業市民となるために「よき家庭の一員となろう」

事業領域

●竹田印刷グループの事業領域

印刷事業

半導体関連
マスク事業

拡印刷事業

物販事業

ステークホルダー

●ステークホルダーに対する基本的な考え方

お客様	お客様の真の課題解決につながる、満足度の高い製品やサービスを提供します。
株主・投資家	対話を大切にしながら、適時適切な情報開示に努めます。
サプライヤー	誠実で公正な取引を通じて、共存共栄を目指します。
社員	個々の能力を発揮しつつ、安心して働ける環境・制度を実現します。
地域社会	地域社会の一員として、社会貢献活動に積極的に取り組みます。

「もっとお客様のお役に立ちたい」 その思いが、事業領域を拡げています。

1924年(大正13年)に産声をあげた竹田印刷は、印刷技術を核として、多方面に事業を拡大してきました。

すべては、お客様のニーズに幅広くお応えするためです。

印刷技術を活かした半導体関連各種マスクの設計・製造、ソフト開発、販売促進の企画から、マーケティング、広告制作にいたるまで。

さらには、物流サービス、印刷機械や印刷用資材の販売、事務用品の輸出入業務をも手がけ、成長を続けています。

お客様、そしてその先のエンドユーザー様の顧客満足向上のために。私たちにできることは、まだまだあります。

■商業印刷

ポスター、カタログ、パンフレット、チラシ、会社案内、社内報、事業報告書など

■出版印刷

新聞、雑誌、書籍、参考書など

■一般印刷

ビジネスフォーム印刷、事務用品印刷、一般証券印刷、包装資材印刷、紙器類およびラベル・シール印刷

▶グループ会社の広がり

商業印刷
[竹田印刷株式会社(印刷部門)]

日刊新聞印刷
[東海プリントメディア株式会社]

紙器類の製造および
ラベル・シール類の印刷
[日栄印刷紙工株式会社]

広告宣伝物の企画・デザイン
[株式会社光風企画]

中国における包装紙器類の製造・販売
[上海竹田包装印刷技術有限公司]

中国における印刷用データの制作
[大連光華軟件技術有限公司]



カタログ



カレンダー



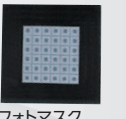
チラシ



広告

多様なニーズに
対応する
印刷

高精細製版技術を
応用した
**半導体関連
マスク**



フォトマスク



スクリーンマスク



メタルマスク

■半導体関連各種マスクの設計・製造・販売および
機械機器類の販売
電子部品実装用各種マスクの製造および
これに付随する業務

▶グループ会社の広がり

半導体関連各種マスクの設計・製造・販売および機械機器類の販売
[竹田印刷株式会社(半導体関連マスク部門)]

電子部品実装用各種マスクの製造およびこれに付随する業務
[株式会社プロセス・ラボ・ミクロン]
[富来宝米可能(蘇州)精密科技有限公司]

中国における半導体関連マスクの設計
[大連光華軟件技術有限公司]

大型印刷機から
雑貨まで
物販



印刷機械



印刷資材

■印刷機械・資材の仕入販売
事務用品・雑貨等の企画・販売

▶グループ会社の広がり

印刷機械・資材の仕入・販売
[株式会社光文堂]

事務用品・雑貨等の企画・販売
[株式会社ウィルジャパン]

潜在的なニーズを
見据えた
拡印刷

■文具・日用雑貨などのネット通販
広告宣伝物の戦略的ロジスティクス

▶グループ会社の広がり

文具・日用雑貨などのネット通販
[竹田印刷株式会社(ネット通販部門)]

広告宣伝物のロジスティクス
[竹田印刷株式会社(物流部門)]

商業施設メディアを活用した地域密着プロモーション
の企画運営
[株式会社共同販促]

社会の変化を敏感に捉え、 ビジネスチャンスにするために

～ISO27001 (情報セキュリティマネジメントシステム) 認証取得～



プライバシーマーク認証時点から すでに考慮

当社では2005年11月にプライバシーマークの付与が認証されましたが、すでにこの時点で個人情報だけでなく情報のすべてを管理する必要があると考えていました。

その後、自治体や大手企業のホームページの改ざんやハードウェア/ソフトウェアのトラブル、さらには関係者による情報漏えいの事件・事故が多発するなど、社会的に情報セキュリティの問題がクローズアップされるようになりました。

このような状況の中、各企業はすべての情報を的確に管理する体制を構築するためにISMS認証取得をするようになり、当社も認証取得を目指すこととなりました。



ISO認証取得経験から 社員だけでトライ

2013年11月の取締役会においてISMS認証取得することが決定され全社にキックオフ宣言されました。その後、準備期間を経て「ISMS推進委員会」を定め、各事業部に「推進チーム」を作り活動を開始しました。

これまで当社はISO9001 (品質)、14001 (環境)、JIS Q 15001 (個人情報保護)と3つのマネジメントシステムの認証取得の経験があり、今回の認証取得については社員の中に「ISO審査員有資格者」がいることもあり、社員だけでトライすることになりました。



外部審査機関による監査対応の様子

VOICE))

営業部門の声

お客様の情報に対するリスク意識が高まり、安全・安心して情報を扱うパートナー企業が求められています。

営業部門としては、ISMS認証取得は大きなビジネスチャンスと捉え、お客様の大切な情報を適切に管理できることを高付加価値ビジネスとして展開していきたいと思っています。

特にお客様のBPOや事務局対応など重要情報を取り扱うビジネスには積極的にチャレンジしたいと考えています。

品質技術部門の声

情報漏えいの危機感を持ち、業務を進めることでお客様から信頼を得られると考えています。今後、お客様から提供される情報を基にダイレクトメールや請求明細書・申込書などの守秘レベルの高い案件受注に繋がって行くのではないかと考えています。

竹田印刷は多くの情報を取り扱う企業として、市場への発表前の製品や企業情報等、お客様の事業活動に関連して顧客情報を預かるシーンが多くあります。

そのためお客様からお預かりする情報に関し、以前から注意する企業風土はありましたが、個人情報を初めとする情報管理の確実性がより必要となった社会状況に対応して、2015年10月にISO27001 (情報セキュリティマネジメントシステム) の認証を取得いたしました。

今回の特集では、認証取得のきっかけから、取得に至る活動、さらに「情報管理」をキーワードにしたビジネス展望をご紹介します。

※以降、ISO27001情報セキュリティシステムを「ISMS」と表記します。



全社総力を挙げての活動で 当社らしいシステムを構築

外部コンサルタントに依存した体制構築では、認証取得後の運用や定着を考えると好ましくありませんでした。そして、従来から取り組んでいるISOや情報管理のノウハウを活かせば必ず取得できると確信し、独力で認証取得を目指しました。

規定・マニュアル・様式などの文書類の準備に始まり、情報資産の洗い出し、リスクの抽出、分析・評価を、全社総力を挙げて実施していく過程で今後の運用に対する自信も生まれ、ISMSの構築が出来、2015年10月に晴れて認証取得となりました。

また、社員教育を効果的に行うため、イラスト入りで分かりやすく解説した「電子情報セキュリティハンドブック」や「シーン別日常リスク対応ガイド」の作成を行い、印刷会社の特性を活かした周知活動も行うなど、竹田印刷らしい情報セキュリティマネジメントシステムの構築が出来たと思います。

認証取得活動をきっかけに制作した「電子情報セキュリティハンドブック」



ゴールでなく、これからがスタート 新たなビジネスへのチャレンジ

無事に認証取得できましたが、これからが本当のスタート。社員への教育による周知の徹底、品質・環境と合わせたISOの3本の矢とプライバシーマークの運用により、当社の実状に即したマネジメントシステムの構築と運用を進めなければなりません。

またこの認証取得は新たなビジネスチャンスをつかむきっかけになると当社では考えています。関東事業部ではBPO (ビジネス・プロセス・アウトソーシング) 事業に力を入れ、セキュリティ工場を設置。企業のストレスチェック代行業務を開始しており、セキュリティ要員教育を受け講習内容をクリアしたスタッフのみ業務に携わるようにしています。

認証取得と新しい事業へのチャレンジによって、当社はまた新しい領域に拡大しようとしています。



BPO業務リスク外部勉強会の様子



認証登録証明書

代表者からのひと言

印刷産業はお客様の大切な機密情報や個人情報を取り扱う情報産業であるとの考えのもと、当社は情報セキュリティを事業上の重要課題と位置づけ、ISMSを構築し、利害関係者の皆さまからの信頼確保に努めております。

ISMSの運用に当たっては、全社員が情報資産の重要性を認識するとともに、情報セキュリティの三要素である機密性・完全性・可用性を堅守するため、各自責任をもって適切なリスク管理に取り組んでおります。また情報セキュリティに関するインシデント

を常に監視し、障害や災害が起きても事業活動が継続できるよう計画し、万一の場合に備えております。

さて、当社では、ISMSのほか、品質・環境の各マネジメントシステムを統括管理するため、TMS推進委員会を立ち上げました。これにより、より一層関連部署との連携を深め、本当に経営に役立ち、かつ効率の高い活動を推進してまいります。

情報セキュリティマネジメントシステム代表者

代表取締役副社長
木全 幸治



拡大を続けるネクスト・イノベーション

～さらに広く、さらに新しく～

竹田印刷は基幹事業である印刷事業を核として、さまざまな分野に活動を拡大しています。2013年に開始したロジスティクス事業がサービス内容を拡げ続けている他、2015年には新たな可能性を期待できる分野にも挑戦しました。

これからも常に新しいソリューションを探究し、お客様のお役に立つようにチャレンジを続けていきます。

01 >>> ワンストップソリューションを実現する 竹田ロジスティクス

事業として本格的に活動して2年目、ロジスティクス事業は大きく飛躍しています。

活動当初は当社制作の印刷物をスタート地点として「モノの移動」を中心に展開してきましたが、2015年には新たに「事務局機能」を追加することになりました。

これによりキャンペーン用ツールを制作し、管理・配送するだけでなく「応募受付」「コールセンター」「ポイント集計」など、キャンペーン運営に直接携わることが可能となり、今まで以上にお客様のお役に立てるようになりました。

多くの重要な情報を取り扱う事務局運営は、このたび取得したISMSに則り、万全の情報管理体制としています。



電話対応FAQ

SFA (セールスフォース)

02 >>> 市場のニーズをキャッチして展開する イベント・ソリューション

これまでお客様からの要望により対応してきたイベント企画・運営ソリューションで、2015年度には2つの分野に向け、大きな飛躍がありました。

1つは外国人旅行者の急増をビジネスチャンスと捉えた「インバウンド向けイベント」。9月に東京ビッグサイトにて開催された世界最大級の総合観光イベントに、中部地区の複数の自治体・観光事業者が共同で出展。そのイベント企画・運営に対応しました。

また消費者のリフォーム志向に対して当社のお客様企業が開催するイベントに対しても定期的に企画・運営を実施。関西事業部で始まったこのソリューションは全事業部に広がっています。



世界最大級の総合観光イベント出展のブース



リフォーム向けに開催する企業イベントブース

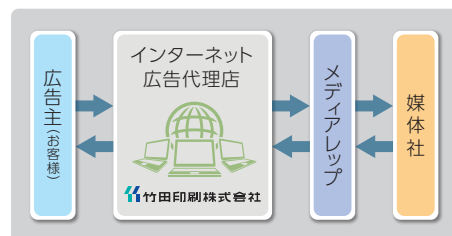
03 >>> インターネットの分野でもお客様に役立つために ネット広告ソリューション

インターネットの広告費は新聞・雑誌を抑え、テレビに次ぐ2番目に数えられるほど、企業宣伝活動になくてはならないものとなりました。

当社のお客様の多くが企業様であり、これまでも印刷物制作だけでなく、WEB、映像、スマートデバイスなど複合的な戦略提案を行ってきました。

2016年1月に竹田印刷は、インターネット広告を取り扱うことが可能となる「ネット広告の広告代理店」として契約を締結。これによりインターネット広告を含めた幅広い提案・対応が可能となりました。

▶ インターネット広告のしくみ



グループ企業の活動

拡がり続ける竹田印刷のグループカ

1924年に創業した当社は、古くから当社と活動している「株式会社光文堂」をはじめとするグループ会社を持ち、近年では中国にも進出する企業に成長してきました。

今回は「株式会社光文堂」と上海に拠点を構える「上海竹田包装印務技術有限公司」の活動をご紹介します。

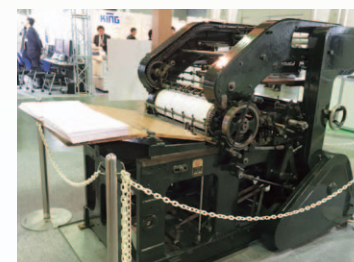


株式会社 光文堂 印刷機材・資材の企画販売のグループ企業

光文堂は1946年に創業し、印刷機材・資材の企画販売を行う印刷関連総合商社です。創業当時は活字の製造販売を中心に活動し、その後印刷機械の販売、そして製造するメーカーとなりました。その後、印刷関連機器に限らず、DTPを中心とするアプリケーションやシステムの開発など業界のデジタル化にも対応しています。

光文堂では「1年の計は元旦にあり」の考えから、毎年1月に新春機材展を開催しています。東京オリンピックが開催された1964年に「第1回光文堂新春機材展」が開催され、2014年の第50回を機に「Print Doors」と名称が改められ、現在に至っています。

創業70周年を迎えた2016年は、「Print Doors 2016 光文堂創業70周年記念新春機材展」として、1月27日、28日の2日間、名古屋吹上ホールにて開催されました。記念すべき今回のテーマは、すべての関係者の皆さまとともにますます発展していくことへの想いを込め「原点、そして未来へ。70.80.90.100年」。開催規模も過去最大となり、140社が出展し、盛大に開催されました。会場入り口には「活版機エリア」が設置され、かつて印刷業界の主役を担った光文堂製作の活版印刷機と活字が創業70周年を記念して特別展示されました。



2016年の「Print Doors」の様子(左)と光文堂創業70周年を記念して特別展示された活版印刷機(右)

【 設 立 】 1946年7月
 【 資 本 金 】 3億1,500万円
 【 本 社 】 〒460-0022 名古屋市中区金山二丁目15番18号
 【 東 京 支 社 】 〒114-0016 東京都北区上中里二丁目5番9号
 【主な業務内容】 製版機械・印刷機械・製本機械・印刷用資材・製版用資材の販売

株式会社 光文堂 本社 社屋 ▶

上海竹田包装印務技術有限公司 竹田印刷グループの海外事業展開の先駆け

上海竹田包装印務技術有限公司(上海竹田)は2003年10月に設立、当社グループにおける海外事業展開の先駆けとして事業を発展して来ています。主な業務として、化粧箱、段ボール、食品用包装箱・袋、シール、手提げ袋など中国における包装用印刷物の企画・販売の他、各種ノベルティ、文具ファイル、防湿袋、段ボール、ガラス材など日本やその他海外への輸出業務を行っています。

また、2015年度から連結決算対象の子会社となり、名実ともに竹田印刷グループの海外事業における中核を担っています。

上海竹田の社員紹介

現在は、DTP業務の他に輸出関連業務や日本のお客様の海外事業部との業務に対応しています。先日は竹田印刷のお客様案件で、中国と日本との間で業務を進行しました。このようなグループ間業務も徐々に増えてきています。

業務推進部
副部長

劉野さん



【 設 立 】 2003年10月
 【 資 本 金 】 40万米ドル
 【 所 在 地 】 〒201613 上海市松江工業区松勝路736号
 【主な業務内容】 中国における包装用印刷物の企画・販売(化粧箱、段ボール、食品用包装箱・袋、シール、手提げ袋等) 日本、その他海外への輸出(各種ノベルティ、文具ファイル、防湿袋、段ボール、ガラス材等)



TOPICS

全社

01 竹田印刷のことをもっと知ってもらうために 当社の広報ツールを刷新中！

当社の基幹事業である印刷事業を始め、半導体関連マスク事業や通販・戦略的ロジスティクスと言った拡印刷事業など、多くの事業内容や範囲は大きく変化しています。企業活動の顔とも言える広報ツールは、その時代に企業状況に合わせて刷新していきませんが、当社も順次ツール刷新しています。

その中でも2015年は「会社案内」「会社案内ムービー」の他、「撮影スタジオ『スタジオACE1』ホームページ」を刷新しました。

■新・会社案内

今回の会社案内制作では、初めに中堅の営業社員が集まり使用シーンを想定し、販売促進、とりわけ新規訪問時のファーストツールとしての活用を念頭に、当社の経営理念である「Hard+Soft+Heart」を、さらに市場状況に併せ「5つのポリシー」として活動方針を掲げました。

お客様から「ご相談」をいただける信頼を大切にする当社の姿勢をアピールし、訪問先の方々に「期待感」を感じていただくことを主眼として制作。これまでの設備紹介的な会社案内ではなく、企業や社員のお客様に対する姿勢や想い、そしてソリューション力を大きく打ち出した内容としました。

刷新された会社案内では、Powerpoint版も制作し、より営業活動として使いやすい工夫も施し、多くのシーンで活用されています。



■新・会社案内ムービー

新しくなった会社案内に続き、会社案内ムービーも刷新しました。会社案内で掲げた「5つのポリシー」と当社の大きな営業的特長である「ソリューション力」を中心に紹介。印刷物と同じように新しいお客様向け用途としつつも、ムービーという媒体の特長も考慮し、リクルートやIRなど、様々なシーンを想定して制作しました。

最近の傾向に合わせ、10分程度の長さには納めています。より一層当社の事業内容を知っていただくために、「事業別紹介ムービー」の制作も計画しており、今後も当社広報ツールの充実を進めていきます。

■「スタジオACE1」ホームページ リニューアル

スタジオACE1は名古屋市郊外にある中部地区最大級の撮影スタジオです。

その「スタジオACE1」のホームページをリニューアルしました。設備写真を一新し、スタジオ使用料やトピックスなど、ご利用のお客様にとってより分かりやすい内容になっています。

スタジオACE1は大型セットの撮影やモデル撮影はもちろん、高さ8mからの俯瞰撮影やムービーの同時録音など、デジタル時代の様々なニーズに対応した撮影を行う事が可能です。

新しくなったスタジオACE1のホームページ。是非一度ご覧ください。



<http://www.studio-ace1.com/>

TOPICS

中部事業部

02 「メッセナゴヤ2015」に出展

2015年11月4日～7日の4日間、名古屋港金城ふ頭のポートメッセなごや（名古屋市国際展示場）で開催された「メッセナゴヤ2015」に出展しました。

「メッセナゴヤ2015」のテーマは「新たな価値を生み出す未来交流」、過去最大1,300社超の企業・団体が出展して、盛大に開催されました。

出展ブースは、全体を一般的な企業として表現。山積みとなっている課題と解決方法をパネルで掲載し、それらの課題を解決する「ワンストップソリューションカンパニー」として当社の活動を紹介しました。その他、制作されたばかりの会社案内ムービーを流すなど、展示内容や説明ツールなど毎年改善を重ね、当社の活動をアピールしています。



コンパクトで中味の充実した当社ブース



会場で披露された会社案内ムービー

TOPICS

関東事業部

03 市場にマッチする 新コンテンツのコンパクトガイド

当社が実用新案の製造・販売ライセンス許諾を得て展開している「コンパクトガイドシリーズ」に新しいコンテンツが登場しました。

常時50名以上の労働者がいる事業所で2015年12月より実施義務化されたストレスチェック制度など、市場の変化に必要なとされるカスタマイズ可能なコンテンツを掲載。

その他、情報セキュリティ、個人情報漏洩対策、SNS利用時の注意事項を掲載するなど、会社と社員を守るために必要な対策として、お客様にご利用いただきやすい内容としました。



TOPICS

関西事業部

04 「防犯防災総合展 in KANSAI 2015」に出展

2015年6月11日、12日にインテックス大阪で開催された「防犯防災総合展 in KANSAI 2015」に出展しました。

このイベントは、西日本最大級の防犯防災展示会として人気が高く、今回は約160社・団体が出展し、16,000名以上が来場。

当社は、災害時に携帯できる防災ツールとして、コンパクトガイドを紹介。各種実用事例を多数展示して防災対策としての有効性をアピールしました。





コーポレート・ガバナンス／内部統制

基本的な考え方

竹田印刷グループは、企業の社会的責任を果たし持続的な成長を実現するためには、コーポレート・ガバナンスの強化・充実が重要な経営課題だと考えています。その考えに基づき、経営の透明性と健全性の確保、迅速な意思決定と適切な事業遂行、法令順守と倫理の確保の実現に向けての組織管理体制の整備に取り組んでいます。

また、2015年6月に適用が開始されておりますコーポレートガバナンス・コードの趣旨を正しく理解するとともに、コードの各原則を当社の実状に則して対応し、現実的かつ実効性の高いコーポレート・ガバナンス体制の実現を目指して積極的に取り組んでいます。

取締役会、役員体制

取締役会は社内取締役8名、社外取締役1名(2016年3月末時点)で構成しており、定時取締役会を月1回開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、重要事項の決定並びに取締役の業務執行状況の監督等を行っています。業務運営に関しては、グループ全体の中期経営計画及び年度計画に基づき、各社がそれぞれ年度予算を策定し、進捗状況の確認をしています。

また当社では、業務執行と意思決定の迅速化を図ることにより、経営効率を向上させることを目的として、執行役員制度を採用しています。さらに、主要グループ会社の代表取締役を主なメンバーとするグループ会社連絡会を原則として月1回開催し、経営状況のモニタリングを適宜行っています。

監査役、監査体制

当社では、監査役3名(2016年3月末時点)のうち半数以上である2名の社外監査役を置き、取締役会への出席や重要書類の閲覧等を通じて、取締役会の職務執行について監査しています。

この社外監査役については、高い見識と豊富な経験を有しているだけでなく独立役員の要件を満たしているため、一般株主と利益相反が生じる恐れがないと判断し、独立役員に指定しました。これにより監査役会の独立性と透明性を備えた公正な経営監視機能の実現を図っています。

さらに社長直轄の組織として内部監査室を設置(2016年3月末時点専従者2名)し、各事業部門の業務処理の適切性等を定期的に監査しています。内部監査室が実施する内部監査の結果について情報の共有を図る等、監査役会と連携しながらコンプライアンスの徹底を図っています。

内部統制システム

「内部統制システムの基本方針」、「財務報告にかかる内部統制の方針」を制定し、適正な業務遂行の実現を図っています。

それらの方針に従い、全社統制・業務処理統制の仕組みを文書化して、実施し、検証する体制や、リスクの統括的な管理体制、さらには情報セキュリティ、個人情報保護等の体制を整備・確立し、厳格な運用を全社的に徹底しています。

財務報告に係る内部統制の有効性評価のため、グループ全体での内部統制の運用改善活動を推進しています。

コンプライアンス

法令や倫理・規範の順守を最優先に考え、そのベースとなる「竹田印刷グループ行動規範」を制定し、全社的にコンプライアンス(法令順守)に対する意識の向上、浸透を図っています。こうした取り組みを推進するため、継続的な研修のほか、「公益通報処理制度」、「内部情報管理規程」を運用することにより、法令違反を未然に防止し企業倫理・法令順守を徹底する体制を構築しています。また、各自治体による暴力団排除条例の制定を受けて、お客様やサプライヤー様等との間で各種契約書や覚書を取り交わし、「反社会的勢力ではないこと、そしてそれらと関わりがないこと」をお互いに表明することとしました。当社は、安心・安全な事業活動を営むことで、広く社会に貢献できる企業を目指しております。

リスクマネジメント

「リスク管理規程」に基づき、「リスク管理委員会」を設置しています。リスク管理委員会では、グループ全体のリスク(コンプライアンス、経営戦略、業務運営、環境、災害等)を網羅的・統括的に管理し、法令・社内規範を順守する体制を推進しています。リスク管理委員会には、「関係会社分科会」「営業分科会」「IT分科会」等の分科会を設けて、組織や業務内容により異なるリスクを洗い出し、低減する活動を行っています。

事業継続計画(BCP)への取り組み

社員およびその家族の健康、人命を最優先させるとともにお客様へのサービス停止の最小化を目指して、インフルエンザや災害(震度6以上の地震を想定)などの発生時でも重要業務を継続し、迅速な復旧を図るため、事業継続計画(BCP)を策定しています。

災害に対する計画では方針や対象とするリスクを明確化し、緊急対策本部組織の機能・設置場所・体制・役割・連絡網など

を詳細に設定し、対応のステップも生産・顧客対応に分類し、より現実的な計画としています。このように策定された計画は適宜見直しを行っています。

情報セキュリティ

個人情報の漏えいや不正アクセス等の情報セキュリティ事故が社会問題化するのに対応して、竹田印刷は、いち早く情報セキュリティ体制を構築してきました。

特にマイナンバー制度における対応では、「個人番号及び特定個人情報の適正な取扱いに関する基本方針」を制定しています。特定個人情報等はマイナンバー法などの関係法令やガイドライン等を順守のうえ取り扱い、安全管理措置のための取扱規程を別途定め、漏えい・滅失・毀損の防止等や適切な管理を行い、継続的な改善にも努めています。

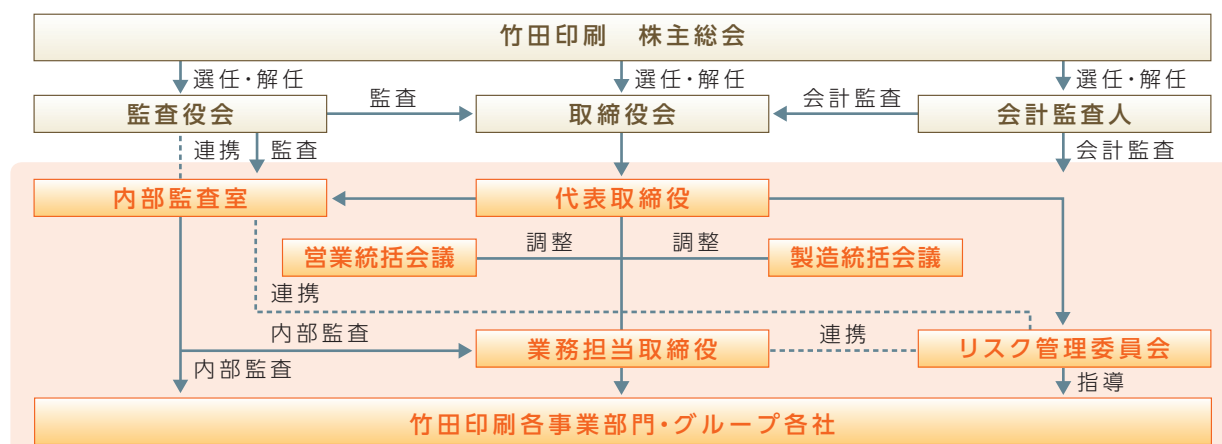
個人情報保護

個人情報の保護が重大な社会責任であることを認識し、全社的に個人情報管理の徹底を図っています。「個人情報保護方針」を制定し、JISQ15001に基づく個人情報保護マネジメントシステムを構築・運用し、2005年からは「プライバシーマーク」の認定付与を受けています。

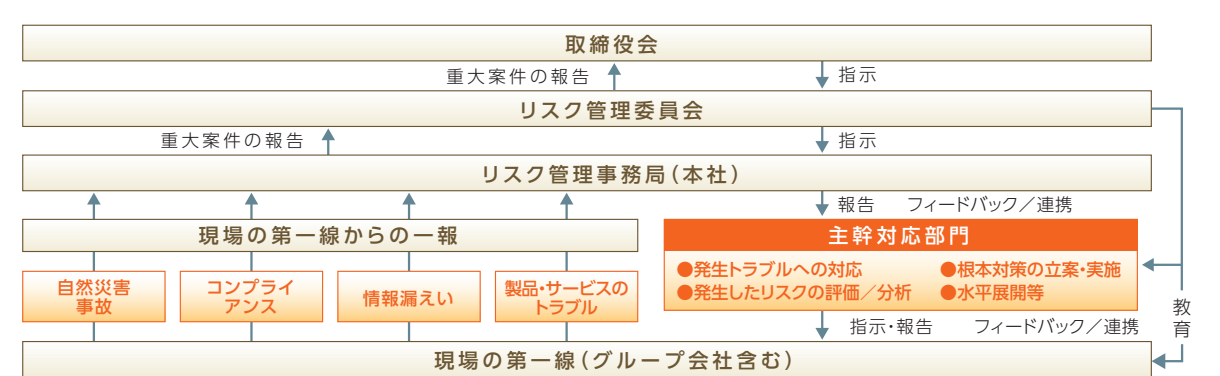
知的財産に関する活動

当社には、多くのお客様の重要な情報の他に、知的財産を取り扱い管理する業務が多くあります。それらを当社の営業活動で紹介したり、広告宣伝物などに展開する場合に、お客様の知的財産権を侵すことのないように事前にチェックする仕組みを構築しています。また、社員向けに発行してる情報ツールにて2015年4月に、音や色、位置にまで登録範囲が広がった改正商標法の注意ポイントを説明するなど、常に知的財産権に対する注意喚起を行っています。

コーポレート・ガバナンス体制図



リスクマネジメント体制図





株主・投資家とともに

組織統治

IR活動

IR活動の基本的な考え方

竹田印刷グループでは、株主・投資家の皆様が正しい判断を下すことができるように、適時適切な情報開示の重要性を認識し、関連法規に従って主体的・継続的なIR活動に取り組んでいます。

IRイベントへ定期的に参加する等、さまざまな場とメディアを利用して株主・投資家の皆様とコミュニケーションを図り、当社の経営状況、成長戦略等についてプレゼンテーションしています。

ホームページアドレス

<http://www.takeda-prn.co.jp/investor/>

利益分配に関する基本方針

竹田印刷グループは、株主の皆様へ安定的な配当を行うことを基本としています。業績、配当性向に加え、企業体質強化・新事業開発のための内部留保にも配慮しながら、総合的に勘案する方針をとっています。定款にて中間配当を行うことができる旨を定めており、中間配当と期末配当の年2回の配当を行うことを基本方針としています。配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会です。

尚、2014年度の期末配当金につきましては、1株につき6円(中間配当金5円を加えた年間11円)とする議案が2015年6月25日に開催された当社定時株主総会において決議され、実施されました。

株主優待

竹田印刷グループでは、株主優待制度を実施しています。2015年は、3月末日で1,000株以上保有の株主様に、新潟県魚沼産コシヒカリの新米を収穫に合わせて10月末にお届けし、9月末日で100株以上保有の株主様には、自社製美術カレンダー「徳川美術館の名品」をお届けしました。

特に美術カレンダーは、徳川美術館様のご理解をいただき、1989年度より株主優待としてお届けしてきました。このカレンダーは当社にて企画・制作し、この間、全国カレンダー展において数々の入賞の栄誉をいただいています。



100株以上保有の株主様への優待として、当社製作美術カレンダー「徳川美術館の名品」をご提供



1,000株以上保有の株主様への優待として、新潟県魚沼産コシヒカリの新米をお届け

名証IRエキスポ

投資家やアナリストの皆様とふれあい、当社の現状と将来の展望をお伝えする名証IRエキスポ2015(会場:名古屋吹上ホール、主催:名古屋証券取引所)に出展しました。

7月24日(金)と25日(土)の2日間で開催された今回は、景気回復が進む世相を反映し、初出展となる企業も多く参加するなど、115社が出展し大変活気あふれるものとなりました。

「優待名人」こと桐谷広人氏の講演に加え、場内に優待品を展示するコーナーも設置され、株主優待にも投資家の関心が高まっていると感じました。来場者数は2日間で9,000名(昨年比1000名増の歴代最高)を記録し、当社のブースにも多くの皆様(アンケート集計474件)にお越しいただきました。

尚、集計アンケート枚数に200円を乗じた94,800円を、2015年4月に発生したネパール大地震への義捐金として、日本赤十字社を通じて寄贈させていただきました。



当社からは徳川美術館カレンダーと魚沼産コシヒカリを展示しました。



当社の事業内容や今後の見通しについて、来場者の皆様へ説明しました。



公正な事業慣行

サプライヤー様とともに

ISO26000
6.6公正な事業慣行

サプライヤー様との関係の基本的な考え方

お客様に高品質の製品・サービスを提供していくためには、紙・インキ・フィルム等の資材や、印刷機器、印刷・製本等を取り扱うさまざまなサプライヤー様の存在が不可欠です。当社は、CSR調達ガイドラインに基づき定めた「購買管理規定」や「下請負契約者審査規定」により、公正に審査・選定・管理をし、適正な購買・取引を行うよう努めています。

社会的責任の遂行は、当社だけで完結できるものではなく、当社とお取引引きいただいているサプライヤー様のご協力が不可欠と考えています。そのためCSR調達ガイドラインを、2014年2月に企業の社会的責任に関する市場の変化を取り入れ、内容を一部改訂し、各事業部からサプライヤー様に対し「CSR調達説明会」を実施し、当社の活動にご賛同・ご協力いただくように説明しました。

その調達ガイドラインには「コンプライアンスの順守」「基本的的人権の尊重」「環境保全」「安全衛生」「適切な情報管理」「QCDと顧客満足の向上」「腐敗防止」の7つの項目を設定し、順守していただくように指導しています。

CSR調達ガイドライン

竹田印刷グループとそのサプライヤー・パートナーは、以下の事項を順守し、企業の社会的責任(CSR)を果たしていきます。

- 1. コンプライアンスの順守**
 - ・会社法や、下請法、環境関連法規など、事業活動に適用される法令や社会規範を順守する。
 - ・特許権・著作権・商標権など第三者の知的財産権を侵害しない。
 - ・反社会的な組織とは取引を行わない。
 - ・自由な競争を阻害する行為や不正な競争行為などを行わず、公正な事業活動を推進する。
- 2. 基本的的人権の尊重**
 - ・従業員に対する機会均等、差別の撤廃、ハラスメント行為の禁止、及び人権への配慮を行う。
 - ・児童労働・強制労働などの非人道的な労働行為を防止し、決して行わない。
 - ・従業員に対し適切な賃金の支払いや労働時間管理を行い、雇用の安定をはかり雇用主の義務を果たす。
 - ・従業員が保有する権利を認識し尊重する。また、労使間のコミュニケーションを図る機会を設ける。
 - ・公益通報者保護法を順守し、内部通報者の権利を保護する。
- 3. 環境保全**
 - ・すべての製品と製造工程で、法令等で指定された化学物質を管理(使用制限や表示など)する。
 - ・廃棄物の処理を、最終処分まで環境関連法規等の法令・条例などを順守し適切に管理する。
 - ・環境負荷の少ない原材料、資材、事務用品などを優先的に購入する。
- 4. 安全衛生**
 - ・誰もが安心して働ける安全・健康な職場づくりを進め、人体へ有害なものには適切な対策を講じる。
 - ・事故、災害の未然防止に努め、機械などへは十分な安全対策を講じる。
- 5. 適切な情報管理**
 - ・取引を通じて得た個人情報や機密情報は、従業員教育を含めて情報流出の防止を徹底する。
 - ・事業活動内容、品質及び製品の安全性などに関わる情報の適時・適切な開示に努める。
- 6. QCDと顧客満足の向上**
 - ・常に要求水準を満たし、品質の向上に努めるとともに、ミスやクレームを防止する。
 - ・市場競争力のある価格で製品・サービスを提供する。
 - ・製品・サービスを定められた納期に、安全・確実に供給する。また、不測の事態においてもそれらを供給できる対策を講じる。
- 7. 腐敗防止**
 - ・贈収賄、汚職、不適切な利益の供与・受領、強要、横領などを禁止し、これらの行為を防止する。

その他、サプライヤー様とは相互に情報や意見を交わしながら、品質向上・環境対策・コスト削減といった共通の目的・目標に対して改善策を推進し、パートナーとしてともに発展していくことを目指しています。

また、環境対策として当社で進めている環境負荷の少ないインキや印刷方法に関しても、サプライヤー様と連携しながら最新の技術・製品の導入を促進しています。

対等で公正な取引のうえで、技術・情報の相互交流等による信頼関係を基本として良好なパートナーシップを構築し、共存共栄に向けた協力関係を築いています。

サプライヤー様を交えた デザインレビューを開催(関東事業部)

関東事業部では、毎年4月、6月、8月、10月、12月に印刷・製本・物流のサプライヤー様に集まっていただき、営業部と生産管理部及び品質技術部が中心となり過去のトラブルや直近の案件に対する注意事項などの情報交換や、調達に対する考え方などを説明する会を開いています。その効果が活かされサプライヤー様の印刷トラブルも削減され、お客様からの信頼と品質の向上に向けて積極的にサポートしています。



定期的に開催されるサプライヤー様に対する品質向上の意見交換会

品質向上分科会

当社では、各事業部において、サプライヤー様との意見交換会を実施しています。ミス、クレーム発生時の迅速な初動、原因追及、対策、改善等に関する取り組みや、安全衛生活動、業界最新情報について意見を交換しています。

各サプライヤー様も厳しい環境にありますが、お客様満足度100%を目指し、感動していただける製品を提供できるよう力を合わせて取り組んでいます。



品質向上分科会の様子



顧客満足向上のための継続的な改善

当社は、顧客満足の根本はお客様の抱える課題を解決することと考え、その基盤ともいべき製品・サービスの質の向上に万全を期しています。

お客様のニーズに応えるためには、現在のお客様の満足度を正確に把握する必要があります。これまで事業部ごとに満足度調査を実施していましたが、2015年度には全社でお客様のご意見を直接伺う取り組みを始めました。

お客様からのご意見の項目を「提案」「情報管理」「業務進行」「納期・品質」「対応」「コスト」など幅広く設定し、詳細な期待や要望を収集できるようにしました。

これらのご要望をISOマネジメントシステムの活動に組み入れ、マネジメントレビューを実施。継続的な改善活動につなげ、さらなる顧客満足向上に役立つようにしています。

製品に関する品質については、ISO9001(品質マネジメントシステム)の認証を取得し、最新の検査設備を導入し、より美しく高精度の印刷を実現しています。また、トラブルが発生した場合は、その原因を徹底的に究明・明確化し、迅速に是正処置を施して再発防止に努めています。

お客様のパートナー企業を目指して

当社は、お客様に対する基本的な方針として「お客様から信頼されるパートナーとなること」を掲げています。そのため、製品やサービスといった受注させていただいた案件への真摯な対応はもちろん、案件以外のさまざまなご要望にお応えしています。

デザイン、DTP、印刷工程勉強会

当社のお客様には多くの企業があります。その企業のご担当者様の要望にお応えし、デザインやDTP、そして印刷工程の勉強会を開催しています。

あらゆる工程がデジタル化された今、データの特性や印刷物以外のメディアに流用できるのか、そして印刷発注時には、どのようなことに注意したら効率よく制作進行できるのかなど、新しくご担当になられた方には、多くの戸惑いを持って業務に就かれています。

そのようなお客様の課題に対し、デザインやDTP用アプリケーションの勉強会や、製版・印刷工程の説明会などを実施しています。

工場見学受け入れ

製版工程や印刷・製本工程などは、資料やWEBで調べるより、実際に見ていただいた方がご理解いただけると当社では

考えています。

例えば、新しく入社された社員や着任されたご担当者様の研修として、事前にご要望をいただければ工場見学にも対応しています。

特に中部事業部には枚葉印刷機、輪転印刷機など多種多様な印刷設備の他、グループ会社の東海プリントメディアでは、新聞印刷の様子も見学いただけます。

学校法人からの依頼対応

当社には、専門学校や大学など多くの学校法人のお客様がいらっしゃいます。学校法人のお客様には、デザイン関連の課外授業や勉強会や印刷までを一貫して見ていただく工場見学だけでなく、就職活動中の学生を対象に取り組まれているキャリアアップ講座にも協力しています。当社の事業内容や取り組み、そして社会人として身に付けておきたい考え方などを講義するなど、実際の学校運営に役立つような対応もさせていただいています。

名城大学キャリアアップ講座実施

2015年10月、名城大学様のご依頼により、可児キャンパスにおいて、都市情報学部2年次学生の総合科目である「キャリアアップ講座」に当社社員が講師を務め講義を行いました。

この講座は2年次学生を対象に、就職活動に必要な知識や情報に関する講義やセミナーを行い、学生のキャリア形成と就職活動に役立つことを目的として名城大学様で取り組まれている講座です。

今回、当社では女性営業社員が講師となり「印刷業界のしくみ～印刷業界の動向と印刷営業とは?」というテーマで多くの受講者の前で講義を実施。実際に制作した印刷物を紹介したり、印刷物とデータベースとの連携について説明し、現在の印刷業務の他、印刷を核として拡がる事業範囲について、事例を示しながら説明しました。

さらに営業の仕事内容や姿勢、どのようなスタッフと共に業務を行っているかについて講演し、受講生の今後の就職活動に役立つようアドバイスを送りました。



専門学校産学連携授業

2015年度もデザイン系専門学校の依頼に応じ、継続して課外授業対応の他、「学校関係者評価委員会」にも当社の営業及び制作ディレクターが参加。より良い授業内容になるように、企業側の立場としてディスカッションさせていただき、学校のカリキュラムの内容向上に協力させていただきました。

お客様より感謝状

2015年11月に半導体関連マスク事業における重要なお客様である「株式会社イースタン(長野県茅野市)」様で開催された創立記念式典にて当社に感謝状が贈られました。

当社からは木全副社長・吉野執行役員(ファインプロセス本部副本部長)が代表して出席、イースタン様の全社員が集合した会場で中桐社長様より感謝状をいただきました。



VOICE

お客様の要望と時代のニーズに応じた提案を

関東事業部 営業本部
ソリューション推進課

横川 佳奈



各媒体のグラフィックデザイン、ディレクションを経て、現在は関東事業部 営業本部ソリューション推進課のWebディレクターとして、営業の方々と同行し、特にWeb案件をメインにサポートしています。

お客様の仕事をする時に心がけている事は、常にお客様の立場になり、求めているものを「分かりやすく」「スピーディに」「的確に」提供すること。そしてお客様の要望に、時代のニーズに応じたご提案で応えること。近年では、Webコンテンツを制作してから印刷へ展開する事や、印刷せずにWeb媒体だけで完結するという事例も増えていますが、私もこのような状況を見据え、印刷の枠に留まらないような、最適なソリューションを提供したいと考えています。

また最近では、「女性活躍推進法案」に準拠するために発足した女性社員部会の関東事業部リーダーに任命されました。意識改革、ワークライフバランス、キャリア形成の3つを基軸とした施策を定期的に展開し、「女性が長く働き続けたいと思う会社＝男性も女性も働きやすい環境」を作っていくことを目指し、今後の竹田印刷の発展に貢献していきたいと考えています。

VOICE

大切なのは「本当のニーズ」をくみ取ること

中部事業部 営業本部
営業1部3課

名倉 太一



入社以来、営業担当として大切にしていることは、お客様の『本当のニーズ』をくみ取ることです。もう少し踏み込んだ言い方をすれば、「目先の課題を把握しつつ、課題の根幹を共有する」ことです。お客様から、単にリーフレットやチラシの印刷、ノベルティー制作のご依頼いただいても、詳しく伺いし「本当のニーズ」がくみ取ることができると、異なるアウトプットがより適していると感じる場合があります。

『本当のニーズ』がお客様の中で明確に確定していない場合でも、お話を繰り返し伺いし、当社の事例や業界情報など最適な情報を集め、ご提供することでお客様との信頼関係、チームとしての結束力も高まり、より良い仕事となると思っています。

お客様からの期待を常に超えることができるよう各方面へアンテナをはり、情報収集することで「何か困った事があれば竹田印刷」と思っていたできるよう日々努力を重ねています。そしてお客様からの「ありがとう」の数を重ね、私を成長させていただいたお客様に還元し続ける。そんな繰り返しが一番大切だと思います。



職場環境に対する基本的な考え方

当社は、常に意欲をもって働くことができるように、社員やその家族の方々の生活をサポートする福利厚生に関する諸制度はもちろん、社員一人ひとりがキャリアアップし、能力の向上や発揮が十分にできるような制度を整えています。

社員を支える各種制度

関連制度（人事評価・マイスター認定・資格取得）

人事評価では、役割ごとのコース・等級設定と階層ごとの基準設定に加え、評価規定を成績・服務・能力に区分し、より詳しい個人評価を行い、社員の総合力を伸ばす制度を取り入れています。

また、特定業務での技能保有者に与えるマイスター制度やその他、能力向上・自己啓発の促進のため、資格取得奨励制度を設け、業務技能とモチベーションの向上を図っています。

社員表彰制度

会社への貢献に報い、さらなる意欲を喚起するため、社員表彰制度を設け、年1回表彰しています。長年職務に精励し、社業発展に尽くされた社員には、永年勤続表彰を、前年度優秀な成果を挙げ、会社の業績等に特に貢献した社員には、優良社員として表彰しています。



メダル授与風景



優良社員記念写真

改善提案制度

日々の業務におけるさまざまな問題点や改善点について、各部門で業務改善を図る改善提案活動を行い、半導体関連マスコ部門では毎年3月に「QCサークル活動発表会」を実施して

QCサークル
活動発表会

います。

年間を通して業務改善等に貢献した優秀な提案については、改善提案委員会で審査のうえ、表彰しています。2015年度の改善提案活動は、949件の改善案が提出されました。

豊かな生活をサポートする福利厚生

竹田印刷では、社員やその家族の方々が豊かで活気ある生活を送ることができるように、社会保険・労働保険はもちろん、慶弔見舞金制度・退職金制度・従業員持株会制度のほか、リゾートクラブ会員、スポーツクラブ会員などの法人利用など、さまざまな面でサポートしています。

購入鑑賞券・招待券の社員配布

当社では、スポーツや文化イベント、家族で楽しめる福利厚生を充実させる目的で、賛助会員となっている美術館・博物館・交響楽団などからの招待券のほかに、野球観戦チケットや観劇などの鑑賞券、スポーツクラブの施設利用券などを購入して、社員への配付機会を設けています。

人材育成に関する活動

当社では人材育成の一環として、さまざまな研修や勉強会を実施しています。

営業研修、勉強会の実施

急速に変化し続ける市場状況に対応し、営業力を向上するために毎月複数回、研修会・勉強会を開催しています。

特に近年では、従来の印刷物を製造する業務からお客様のニーズをキャッチし、総合的なソリューション提案を行う活動にシフトしており、その対応力アップが急務となっています。

具体的には、実際に受注に繋がった「成功事例発表会」や「プレゼンテーション研修」など、中堅社員が中心となり実施。また2015年度にはお客様へのヒアリングをテーマとした研修を社内で企画し、ロールプレイ形式で行う方法で開始しました。

研修会では、ベテラン社員がその内容を審査・評価しアドバイスするといった実践的な形にし、当社の営業力全体のレベルアップを図っています。

今後も、変化し続ける市場やお客様の状況を的確に捉え、さまざまな研修会・勉強会を実施していくように計画しています。



営業研修の様子

新人研修（フォローアップ研修）

新入社員に対しては、当社の規則・制度・安全衛生・事業の基礎知識等の教育を行うほか、外部講師を招いて入社時の基礎研修を実施し、社会人としての心構えや仕事の正しい進め方等の指導をしています。

入社後5ヶ月目前後にフォローアップ研修を行い、これまでを振り返り、プロ社員として成長していくために必要なことを学ぶ等、新入社員の「ビジョン」をフォローする指導を行っています。

新入社員フォローアップ
研修の様子

VOICE

フォローアップ研修を受けた社員の声

関西事業部 営業第1部1課
2015年4月入社

沖 采海（あやみ）



単に新人研修を振り返るだけではなく、目標とする具体的なキャリアビジョンを描けるよう、グループワークなどを行って自ら導き出していく研修でした。5ヶ月ぶりに再会した同期達と上司には相談しにくい様々な疑問や悩みを共有したり、同期達の課題解決しようとする熱意や仕事に対する頑張りなど目の当たりにして、私にとっては大きな刺激となりました。また自分の課題解決についても、改めて時間を費やして考え書き出していくことで発見できたことも勉強となりました。将来はお客様の真意をくみ取れる営業になるため、この研修で得たことを活かしながら、常にお客様の立場で考えて行動していきたいと思っています。

社員向け英会話教室開講

2015年度、社員能力開発支援の新たな試みとして「社内英会話教室」を開催しました。

語学学校より外国人講師を招き、8～10名程度の少人数クラスで行い、毎週定められた曜日の就業時間後から2時間を1回として全20回で開かれました。

受講者募集には多数の社員が応募し、事前にレベルテストを行い、受講者のレベルを揃えて実施。第1回目は7月から開講

され、その後社員から強い要望もあり2月からは第2回目が開催されています。

多言語版の印刷物やお客様のグローバル展開に対応するために、今後も社員に対してスキルアップした受講機会を検討しています。



英会話教室

VOICE

英会話講習を受講した社員の声

中部事業部 FP技術部FP技術課
2012年4月入社

折居 健太



海外のお客様からの英文メールをたまに読む程度でしたが、卒業旅行で英会話に苦労した経験もあり、受講を決めました。講師がおっしゃった「話すことを恥ずかしがらないこと」を常に心掛け、間違ってもいいから動作をつけて話し、忙しくても必ず出席していました。明るい雰囲気での授業で続けることもでき、英語への抵抗感もなくなり、休憩中にも講師や他部署の受講者と英語でコミュニケーションをとれるようになりました。英会話ができるようになったとはまだ言えませんが、今でも海外ドラマなど見て英語に触れることは続けています。いつか海外のお客様と直接やり取りできるよう、地道に学んでいきます。

社内勉強会（印刷工程見学会）

2015年6月に、企画・デザイン・DTP制作に携わる社員を対象として、プリプレスから製本までの印刷製造工程の見学会を実施しました。作成したデータが次工程以降どのように展開されていくかを理解し知識を深めることで、作業改善やミス防止につなげ、品質向上に努めています。また製造現場のスタッフとコミュニケーションを交わすことにより、印刷技術を活かしたデザイン表現のアイデアを習得する機会となり、お客様への提案活動につなげています。

刷版工程を
説明している様子



社員とともに

労働慣行

労働安全に対する基本的な考え方

当社では、社員が安心して働けるように安全衛生管理活動を充実させ、社員の安全と健康に対する配慮が重要と考え、労働災害の防止や心と身体 の健康維持が推進できるように努めています。

労働災害防止に対しては、職場環境の危険性や有害性等の調査などリスクアセスメントを実施、心身健康のためには定期的な健康診断や長時間労働の状況調査、精神的健康に対しても保持・増進できるように対策を充実させています。

さらに社員一人ひとりに活動の意識向上のために安全衛生教育に関する規定を設け、適時実施しています。

中部事業部で「火災による避難訓練」を実施

中部事業部にて、2016年2月に「社屋からの出火」を想定して、避難・誘導・消火訓練を実施しました。

この訓練の1年前に小規模な出火発生があり、今回はその経験を踏まえ、細かな点までチェックする訓練となりました。当日は社員約70名が、真剣に訓練に取り組み、全員避難までに8分以下で終了することができました。

同時に、「放送」や「非常ベル」の現状に課題が見られる残存リスクなど、改善できる事項も把握することができました。

今後は、より完成度の高い防災システムについて検討し、早急に構築するように進行していきます。



避難訓練の説明

社員による消火器訓練

本館AED更新に伴う使用方法の講習会実施

中部事業部ではAEDの機種更新に伴い2015年4月に「AED取扱説明講習会」を開催しました。

日常の業務途中などに倒れた方がいた場合に備え、的確な初期救急措置を熟知してもらうために、多くの社員と入社したばかりの新入社員が参加して行われました。



関西事業部で普通救命講習を受講

2016年3月に関西事業部では消防署に依頼し「普通救命講習」を実施しました。

この講習は、救護が必要な人が発生・発見した場合の人工呼吸や胸骨圧迫などの心肺蘇生法、AEDの取扱い方法などを消防隊員から実技を交えて判り易く指導していただくものです。

約3時間の講習後には「修了証」を交付されるとともに、今回当社から講習依頼したことを「積極的に救命業務に協力している」として八尾市長から感謝状をいただきました。



鳩ヶ谷工場にて無労災を継続中

関東事業部鳩ヶ谷工場において、2016年4月をもって無労災2900日を達成しました。労働災害0件の継続を目標に掲げ、安全衛生パトロールや社内、同業他社で発生した事故事例を含めたリスクアセスメントを実施しています。毎朝のミーティングでオペレーターの顔をチェックし声掛けしていることが、継続の秘訣です。



交通安全運動へ参加

関東事業部では、東京都北区滝野川警察署・滝野川交通安全協会より優良ドライバーとして永年交通事故防止に協力・尽力している社員に対して「優良運転者」として感謝状をいただいています。また、「春・秋の交通安全運動」として近隣小学校に隣接する交差点での安全旗振り活動や「飲酒運転撲滅ビラ配布活動」に積極的に参加しています。



人 権

ダイバーシティとワークライフバランス

ISO26000
6.3人権

ダイバーシティの推進

多様な人材を積極的に活用して、能力を最大限に発揮させようという考え方である「ダイバーシティ」。当社では女性の活躍を推進するよう取り組んでいます。2015年8月は女性活躍推進法が制定され、301人以上の企業に、女性の活躍に関する現状と課題を把握させ、今後の行動計画策定を求めています。

これまで男性職場のイメージが強かった印刷業界は女性社員の育成が不十分なところも見られ、当社でも今後さらに女性の活躍を進めるなど、積極的にダイバーシティを推進していく予定です。

女性社員部会発足～女性が働きやすい職場をめざして

2015年11月に女性社員部会が発足。まずは、営業部の若手女性社員をメンバーとし、今後活躍できる人材となるためのスキルアップと社内ネットワークの構築をめざし準備し、2016年度より本格的に活動する予定です。

女性がより活躍できる会社となるために必要な環境整備や意識改革は、女性に限らず会社全体の課題でもあるため、目的に応じて各種プロジェクトの開催や、追加メンバーの招集を行います。



障がい者雇用の状況

当社は、さまざまな障がいをもつ方々にとって、多様な個性や能力を発揮していただける職場環境で就労できることが、社会的自立を支援することと考え、障がい者雇用に取り組んでいます。

定年退職者の再雇用

定年後、長年の経験や当社で培った技術・能力を次の世代に継承していくことを主な目的として再雇用制度を整えています。さまざまな分野で高い技術や能力を有している「人財」を無駄にすることがないように再雇用制度を活用しています。

ワークライフバランスに対する基本的な考え方

竹田印刷では、社員が充実したワークライフバランスを保つことができるように「業務にメリハリを持ち、社員同士や家族とのコミュニケーションを深める機会を増やす」ことを方針として掲げています。

ワークライフバランスを支える制度

社員のワークライフバランス充実のために、さまざまな制度や社内規定を設けています。

妊娠中の女性社員に対しては、業務内容や時間外・休日・深夜勤務に対し本人と相談の上、作業制限・勤務時間短縮などを行うほか、時差出勤や休憩時間延長・回数増加、そして保健指導や健康診断時間の確保などの対応策を考慮できるよう就業規則で定めています。

育児休業制度

出産後、原則として1年(最大1年6ヶ月)まで休業することができるとともに、子どもが3歳になるまでは、短時間勤務・時間外労働の免除、さらに小学校就学開始までは、深夜勤務・時間外労働の制限や子どもの看護休暇が取得できるようにしています。

出産休業・育児休業の取得状況

制度名／年度	2013	2014	2015
産休・育児休業	8件	2件	7件

VOICE

ワーキングマザーの声

関東事業部 生産管理部 菅直G

安井 久美子



現在、2歳の娘がおり短時間勤務を利用しています。担当している業務は、営業部のアシスタントで、お客様のキャンペーン事務局の運営(応募はがきのアンケート集計、賞品発送など)の対応のほか、その他のお客様では、納品手配、在庫管理、校正、請求書発行、売上資料作成などを行っています。

時短勤務のため、時間内に業務が終わらない時や、子どもが体調不良で休みが続いた時は、皆に迷惑をかけてしまうというジレンマを感じます。そんな時は同僚が助けてくれるので、とても感謝していますし、自分なりに気持ちの切り替えをするよう心掛けています。

また主人が家事育児に協力的なので仕事と家庭の両立が可能になっていると思います。

これから、もっと多くの女性社員が活躍できると良いと思います。

介護休業制度

介護が必要なご家族がいる社員に対して、通算93日の介護休業または介護短時間勤務が取得できます。

また同社員の深夜勤務及び時間外労働は制限され、1年間に5日まで介護休暇を取得することができます。



コミュニティ 地域社会とともに

ISO26000
6.8コミュニティ

【中部事業部】昭和区区民まつり協賛

中部事業部では所在地である名古屋市昭和区の「区民まつり」に毎年協賛しています。

「区民まつり」は、毎年10月に昭和区にある「鶴舞公園」で開催されています。この「鶴舞公園」は、名古屋市が設置した最初の公園として開園、園内には噴水塔、普選記念壇（ともに市指定文化財）や奏楽堂、鶴々亭など歴史的な施設もあり、公園のほぼ全域が国の登録記念物として文化財に登録されています。

広い園内ではさまざまなイベントが開かれ多くの区民が集まります。その中でも「お楽しみ抽選会」は、近隣のお子様を楽しみにしており、当社はその賞品を寄付する形で毎年協賛させていただいています。



昭和区区民まつりの様子

【中部事業部】名古屋少年少女発明クラブ支援

名古屋少年少女発明クラブとは、未来を担う子どもたちへ科学技術に関する興味・関心を追及する場所を提供し、科学的で独創的な発想の創作活動などを通して、発明・工夫の楽しさや創作する喜びを体感してもらい、創造性豊かな人間形成に役立てる目的で活動している団体です。活動拠点でもある名古屋市科学館やデリバリー教室にて、多くの子どもたちが学校や家庭では体験できない、ものづくりを楽しみながら学んでいます。

中部事業部では、2007年の団体設立当初から同クラブの趣旨・活動に賛同しています。また、名古屋市科学館では、当社で取り組んでいるはっ水研究開発の展示もされており、ものづくりの産業界を支える人材育成に、協賛企業として支援させていただいています。



デリバリー教室風景

【中部事業部】インターンシップ(就業体験)受け入れ

中部事業部では、学生に実際の仕事や業務に触れ、実習を通して知識や技術を学んでもらうきっかけとして、各学校のご依頼のもと、インターンシップ(就業体験)を実施しています。

2015年度は高校・専門学校・大学などから13名の学生の方をインターンシップ生として受け入れ、製造や営業の現場などで、業務体験や必要な知識・技能などを社員から学んでいただきました。

今回よりISMS認証取得企業として、就業体験者と情報管理に関する取り決め(誓約書)を結び、機密情報漏えいや情報管理の意識を高めていただいたうえで就業体験していただきました。

最近では特に大学からの要望も多く、未来の産業界を支える人材育成の一環として今後も取り組んでまいります。



インターンシップの様子

【関西事業部】職業体験

2015年6月に関西事業部の拠点である八尾市の中学校からの依頼により「職業体験」を実施しました。

2日間の日程で、関西事業部オフィスにて2名の中学生が名刺や暑中見舞いハガキなどを制作。日頃触れたことがないDTP用のアプリケーションに苦労しながらも無事完成することができました。その後、太田工場で実際に印刷されている現場を見学し職業体験は無事終了しました。

学校生活とは異なる体験は、生徒たちの将来における職業観・労働観・人とのふれあいの大切さを感じることができたと、後日学校側よりお礼の言葉をいただきました。



職業体験の様子

【全社】地域清掃とエコキャップ運動

当社では、毎月1回、会社周辺の清掃活動を実施しています。特に最近では近隣の特別養護老人ホームや幼稚園周辺などにも力を入れ、早朝清掃活動を実施しています。

エコキャップ運動は、ペットボトルのキャップを回収し再資源化することで、焼却の際に発生するCO₂を抑制するとともに、キャップの売却益で発展途上国の子どもたちにワクチンを贈る活動です。

竹田印刷は、ひとりでも多くの子どもたちにワクチンを届けられるよう、グループ全体でエコキャップ運動に取り組んでいます。

2015年度までの運動結果として累計162,465個のキャップを回収し、203人分のワクチンを贈ることができました。



エコキャップ回収ボックス



環境 環境活動

ISO26000
6.5環境

環境マネジメントシステムの状況

環境管理委員会

竹田印刷では、環境管理責任者のもと、環境管理委員会が組織されています。環境管理委員会は、品質管理委員会と協調しながら、環境・品質ともに全社で年度方針を定めています。

毎月開催する環境管理委員会では、年度事業部方針を受けて各部署の環境目的・目標が検討され、経営者や環境側面等からの見直しを経て決定されます。さらに各部署より環境目標に対する2ヶ月ごとの進捗状況、関連法規制の順守状況、内部環境監査や第三者審査機関による外部審査の内容が報告される仕組みになっています。年度末には各部署の達成状況に応じて、より高い環境目標にチャレンジするように委員会は各部署に対し指導し、環境活動がなお一層向上するように目指しています。

環境マネジメントシステム

監査の状況

環境マネジメントシステムが適切に運用され、維持されていることを確認するため、「内部監査規定」を定め、定期的に内部監査を行っています。内部監査は原則として年2回行っていますが、重要な不適合が発生する等、環境管理責任者が必要と認めた場合には臨時に実施することになっています。

内部監査の審査結果状況

2015年度の内部監査の結果、全社合わせて19件の「観察事項」や「改善の機会」として指摘されましたが、いずれも軽微な事項であり、全て直ちに是正処置を取り対応しました。

内部監査の傾向としては、運用等の確認が重要視されるとともに、指導的コメントが増えて改善向上型の活動になっています。また、現場主体型の内部監査を実施し、全社で水平展開して取り組んでいます。

内部監査員の状況

内部監査有資格者として、2016年3月時点で中部事業部10名、関東事業部10名、関西事業部27名が任命されています。

当社では、内部監査有資格者の一層の充実を図るために内部監査員認定教育に力を入れ、中でも30代前半の若い世代や女性の有資格者を増やして次世代の充実を図っています。

内部監査員となる者は、第三者機関の養成研修もしくは社内研修を受講します。その中から内部監査員として任命された

者には、定期的に管理責任者及び教育管理責任者によるリフレッシュ研修を実施しています。



リフレッシュ研修の様子

外部監査の審査結果状況

外部認証機関(インターテック・サーティフィケーション株式会社)による更新審査及び維持審査を実施しました。

審査の結果、全社合わせて「軽微な懸案領域」5件と「改善の機会」1件の指摘がありました。指摘いただいた項目には、さまざまな内容のものがありますが、主な項目については以下のように改善しました。

❖ 購買プロセス

「下請負契約者評価表」の中にある「技術力に対する信頼性」が2年連続低い組織の場合、総合ランクが合格であっても何らかの指導を行う。

❖ 顧客満足

「顧客満足度アンケート」の評価項目・聴取事項は受身的な情報だけでなく、「経営方針書」に謳われた「創注(創造的な提案)」に繋がる情報収集や提案についての項目を含めることを検討する。

❖ 力量、教育訓練及び認識

社員の力量評価基準が「指導を要する、指導を受けて作業ができる、理解し作業できる」と指導ベースの評価基準でなく、作業技能習熟度によるレベルの違いが分かる評価基準に見直す。

❖ 記録の管理

年2回の騒音・振動測定、大気・臭気測定、有機溶剤測定記録の保管・保管期間の手順を特定する。



竹田マネジメントシステム基本方針

私たちは、品質、環境、情報セキュリティの活動に対し、竹田マネジメントシステムを確立し、企業活動を通じて社会への貢献を目指します。

(a)品質

いつもお客様の立場から企画・提案を考え、独自の手法で品質の向上並びにミスの削減に努め、お客様の期待に応えるファーストコールカンパニーを目指します。

(b)環境

紙媒体とデジタル媒体の融合を推進し、限りある資源確保のために資材や生産エネルギーの有効な活用と廃棄物のリデュース、リユース、リサイクルに努めます。そして、気候変動の緩和及び適応、並びに生物多様性及び生態系の保護を含め環境保全意識の向上を図り、環境への負荷を減らす取組みを積極的に行い、環境汚染の予防に努めます。

(c)情報セキュリティ

適用範囲の全ての情報資産を脅威から保護するため、マネジメントシステムを確立し、その導入、運用、監視、見直しを実施することでリスクを適切に管理します。

(d)教育・訓練

竹田印刷(株)で働く又は竹田印刷(株)のために働くすべての人々に対して教育・訓練を定期的実施し、全ての人がレベルアップに取り組み、お客様をはじめ利害関係者の信頼に繋がります。

(e)順守

竹田印刷(株)で働く又は竹田印刷(株)のために働くすべての人々は、関連する法規制、業界規範及び、お客様の要求事項を順守し、本方針を維持するために策定された手順に従い、行動規範とルールを守ります。

(f)継続的改善

重大な障害または災害から事業活動が中断しないように、予防及び回復手順を策定し、定期的な見直しをいたします。また、適宜、環境の変化に応じた見直しを実施し、維持及び継続的に改善を行います。

(g)周知

本方針を文書化し、啓発活動を行い、竹田印刷(株)で働く又は竹田印刷(株)のために働くすべての人々に周知するとともに社内外に公表します。

2016年4月1日
代表取締役副社長 木全 幸治



環境取組み・目標

	2015年度 環境取組み	2015年度実績	評価※1		2016年度環境目標
環境に有益な活動	① エアコンのタイマー設定を実施する	本社社屋のエアコンを最新型に交換し、全台タイマー設定を実施した。 前年比：1.02 %削減	A		全社への展開 消灯・エアコンの温度管理を徹底して、省エネ活動へつなげていきます。
	② 社用車のエコ運転の実施	10項目のエコ運転活動を継続して実施した。	A		営業部を中心とした継続的な実施
省エネ活動	③ 印刷機のデマンドコントロール※2の活用	687.03kwhの削減効果があった。 これはデマンドコントロールのフル活用プラスLED照明への交換が影響大である。	A		全社LED化の促進 前年度以上に、デマンドコントロール監視を行い、効率よく印刷機等を運用します。
	④ 廃棄物削減(対前年比5%削減)	1) 固形燃料 前年比：20.01%削減 2) 金属類 前年比：43.36%削減 3) 再生紙 前年比：17.52%削減 4) 紙媒体を削減し、データ化を促進する(削減率は、2016年度に測定する)	A		1) 今一度、各部署での分別収集の徹底を図る。 2) 産業廃棄物処理場への立ち入りを行う。自社からの廃棄物がどのように処理されているかを、関係部署の社員を同行視察させ、削減活動へつなげる。(対前年比5%削減) 3) 紙媒体とデジタル媒体の融合を推進し、資源の有効活用を促進する。
	⑤ 環境コミュニケーション	1) CSRLレポート2015を6月末に発行 2) 毎月1回会社周辺清掃活動の実施 3) ホームページのリニューアルへの取り組み	A		1) CSRLレポート2016を6月末に発行 2) 継続して実施する 3) ホームページの活用
化学物質リスク管理	⑥ 化学物質リスクアセスメント	化学物質リスクアセスメントの義務化に向け、安全衛生委員会を中心に準備期間として取り組みを強化した。	A		リスク管理を実施して、竹田マネジメントシステムとして取り組む。 危険箇所・危険作業の改善を安全衛生委員会を主体にして取り組んでいきます。
	⑦ 環境マネジメント	法令違反、行政指導、外部からの苦情実績なし。 ISO14001外部審査、内部監査を実施	A		竹田マネジメントシステムに基づいた監査の実施
	⑧ 省資源(対前年比2%削減)	事務用紙使用量2%削減を達成した。	A		事務用紙使用量 対前年比2%削減

※1 A:目標達成 B:積極的に取り組んだが未達成 C:未達成(不十分) ※2 電力の使用状況を把握(見える化)し、省エネ・節電につなげる対策

環境教育

環境マネジメントシステムの効果的な運営を図るために、社員に対して次のような教育をしています。

一般教育

全社員に対し、全社朝礼・職場朝礼のほか、部署のマニュアル・手順書・環境側面特定評価表等を用いて実施しています。また、月に1回開催されるISO推進委員会で、環境コンプライアンスの教育を実施しています。

専門教育

特定業務従事者※に対し、環境管理責任者、ISO推進委員などによって実施しています。また外部講習会へ積極的に参加するほか、当該職場での資格取得の義務付けを行っています。

環境教育については「年間教育計画表」を作成し計画に基づき実施しています。教育の記録は「全社年間教育計画及び実施表」「年間教育計画表」「個人別資格・教育・訓練記録カード」に記入され保管されています。

※特定業務とは

環境に著しい影響を与える可能性のある業務及び法規制上の届出設備(大気汚染・水質汚濁・騒音／振動に関する設備)を扱う業務。

環境コミュニケーション

内部コミュニケーション

ISO推進委員会の通達や原材料等の環境配慮商品情報機関開示等、必要に応じて各部署内でコミュニケーションを充実させ、環境配慮への意識を高めています。作業工程のミスはエネルギーや資源の無駄使いにつながると考え、ミス発生件数削減を内部コミュニケーションの大きなテーマとして取り組んでいます。

外部コミュニケーション

今年度の外部コミュニケーションの記録としては381件ありました。主な内容として以下のようになっています。

- ◇ 行政(県・市・保健所等)からの調査依頼=25件
- ◇ 得意先からの調査依頼、環境相談等=5件
- ◇ 環境に配慮した提案=306件
(CSR・環境報告書、FSC CoC認定マーク製品、エコバッグ、MYはし 等)
- ◇ 地域住民とのコミュニケーション情報=42件
- ◇ 仕入又は下請負先からの調査依頼=0件
- ◇ その他のコミュニケーション情報=3件



当社は、「環境パートナーシップ・CLUB(EPOC)※」の設立当初から会員となり、広く一般企業や市民へ情報発信し、資源循環型社会の形成に関する普及啓発を図っています。

また関東事業部越谷工場においては埼玉県地球温暖化対策推進条例に基づくCO₂の削減活動に取り組んでいます。埼玉県では2020年までに温室効果ガスを25%削減(2005年基準)という目標を達成するため、計画期間内のCO₂の削減状況に応じて排出枠の取引が可能になる目標設定型排出量取引制度が創設されました。第二計画期間である2015年度～2019年度の計5年間のCO₂排出量削減について取り組んでいます。

※環境パートナーシップ・CLUB(EPOC)とは

中部地区の産業界の環境オピニオンリーダーが中心となって、日本の産業の集積地であるこの地域から環境対応に関する情報を発信するとともに、世界に誇れる環境先進地域の形成と安全かつ快適な「循環型経済社会」の構築を目指して、2000年2月に設立された団体。



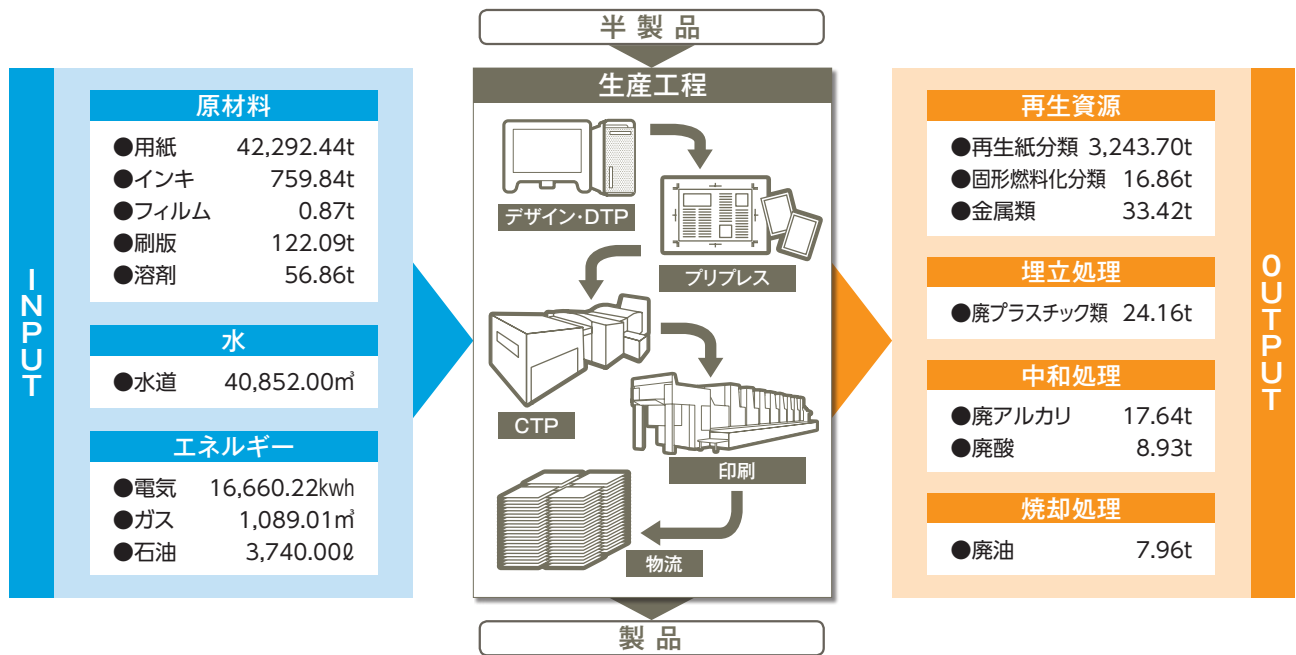
環境負荷の全体像

事業活動に伴う環境負荷量

竹田印刷では「紙・フィルム・樹脂及びインキ等」を原材料として製品を製造しています。できる限りインプット・アウトプットデータを収集しまとめています。

大気への排出量等の把握ができていませんが、今後もデータを収集し、正確な環境負荷量を管理したいと考えています。

❖ 事業活動における2015年度の資源投入と環境への排出



環境保全の状況

法規制の順守

環境に関する法規制を順守し、環境汚染をできる限り少なくすることは、企業の重要な責務との認識の基に、管理しています。

❖ 該当法規制一覧

法規制等の名称	該当施設及び項目
環境基本法	全部署
大気汚染防止法	オフセット輪転機における乾燥装置
水質汚濁防止法／下水道法	フィルム及び印刷版の自動現像機
騒音規制法	印刷機、圧縮機、送風機
振動規制法	印刷機、圧縮機、送風機
悪臭防止法	洗浄及び検査における薬品等
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	紙くず、酸性及びアルカリ性廃液、廃油、廃プラスチック
容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進に関する法律	容器の再商品化義務及び識別表示の義務
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律	化学物質の特定及び排出量の把握及び届出
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別処置法	廃PCB(廃コンデンサ)
自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量の削減等に関する特別処置法	営業車の使用管理計画書の作成及び営業車使用管理実績報告書の作成と届出

法規制等の名称	該当施設及び項目
消防法	防火設備の設置、管理及び点検報告の義務
エネルギーの使用の合理化に関する法律	全部門
名古屋市長緑化推進条例	事業活動の実施にあたり緑化の推進等に必要な措置を講ずる
市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例	事業活動による公害を防止し、負荷を低減するため、自己の責任において必要な措置を講ずるとともに市の施策に協力する
東京都環境確保条例	ディーゼル車の排ガス規制事業者への責務
越谷市環境条例	自動車の使用者又は運転者の責務
大阪府生活環境の保全等に関する条例第19条第1項	事業活動による公害を防止し、負荷を低減するため、自己の責任において必要な措置を講ずるとともに市の施策に協力する

廃棄物の管理

■ 廃棄物の管理・運営

事業活動の中で発生する廃棄物を適正に処理するため「廃棄物処理実施規定」を定めています。廃棄物は、下表のように分類し、部署ごとに役割を明らかにして分別管理をし、指定場所に一時保管しています。

廃棄物は、それぞれ種類別にして保管し、管理方法を決めています。特に特別管理産業廃棄物は、水質汚濁や土壤汚染を招かないように厳しく管理しています。

また、産業廃棄物処理を委託している業者は厳選して、契約書を取り交わし、廃棄物が正しく処理されているかマニフェスト伝票により管理しています。

年に1回以上は、産業廃棄物処理業者への立入り調査を行い、目視により適切な廃棄物処理が行われているか確認しています。



産業廃棄物処理業者立入り調査

■ 廃棄物の種類

一般廃棄物	生活系によって生じる廃棄物
産業廃棄物	・廃紙 ・フィルム現像廃液・フィルム定着廃液 ・刷版現像廃液 (PH9を超え、12.5未満) ・軟包装屑 ・ポリ容器 ・プラスチックシート ・ワンプ ・プランケット ・廃油 ・廃インキ ・木くず等 ・生産活動によって生じるもの
特別管理産業廃棄物	刷版現像廃液 (PH12.5以上)

化学物質と汚染予防の管理・状況

■ 化学物質管理

竹田印刷は、環境マネジメントにおける化学物質等の管理に関し必要な事項を「化学物質等管理標準マニュアル」に定め、自主的な適正管理や安全性の高い代替物質への転換を促進するとともに、化学物質による危害防止、火災予防、労働災害の防止並びに廃棄物の拡散防止に努めています。

また、社団法人日本印刷産業連合会発行の「印刷事業所における化学物質による健康障害防止対策のポイント」を活用し、同連合会が定めた「健康障害防止対策基本方針」を順守して社員の健康障害防止を図っています。

PRTR法と一般に呼ばれている「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」に対応し、当社は年2回の環境測定を実施して現状把握を確実にし、代替品に変更するなど環境保全に努めています。

また、安全データシートを常に最新版と入れ替え、化学物質等の最新情報を入手してISO推進委員会で公表し、教育と周知徹底を図っています。

■ 騒音・振動の予防策と測定状況

騒音・振動防止対策として、印刷工場は建築設計の段階から防音対策構造として二重壁・二重窓を採用し、内壁には吸音材使用による防音対策を施しています。また、振動を防ぐ振動防止対策基礎設計の建築となっています。

騒音の測定記録については、当社の敷地の周囲が、幹線道路及び西側、東側道路を走行する車の影響化にあり、騒音レベルが低くなった状態の測定値を当該工場の騒音レベルと見なし、時間率騒音レベルを求めた結果、全時間帯において規制基準値を下回りました。

■ 排ガスの予防策と測定状況

大気汚染防止法のばい煙発生施設に該当しているオフセット輪転機の乾燥装置は、定期的に年2回の排ガス測定を実施しており、法規制値より厳しい自主管理値を設定し徹底管理を行っています。

■ 工場排水処理策と測定状況

水質汚濁防止対策として、製版工程から排出される定着廃液・現像廃液等の濃厚な廃液は完全に回収し、法律に基づき適正に処理しています。

水質はPH(水素イオン濃度)、BOD(生物化学的酸素要求量)、SS(浮遊物質質量)、金属含有量、有害物質等の項目を定期的に年2回測定し、法規制値より厳しい自主管理値を設定し徹底管理しています。



省資源の状況

グリーン購入・グリーン調達

環境活動を効果的に行うために、原材料、副資材等の購入、設備機器の導入等の際には環境に与える影響を削減するように配慮しています。環境目的・目標にも「グリーン調達の推進」を掲げ、グリーン調達の情報を収集し積極的な促進を図り、半年に1度は価格の見直しを行い、常に経費の削減にも気を使っています。

また竹田印刷では、“大豆油インキ”に替わる“ベジタブルオイルインキ”の使用を促進しています。ほかに、新たに設備導入する場合は「設備の環境影響チェック表」を作成し環境影響を逐一チェックしています。

省エネルギーの状況

省エネルギー活動

竹田印刷は、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」(1979年10月施行)の規定に基づき、省エネルギー活動を効率的かつ効果的に推進しています。当社ではこれを省エネ改善活動として捉え、より多くの項目を効率よく実施することで、目標達成に向け力を注いでいます。

2014年度には、印刷機全てにデマンドコントロールを設置し、デマンド監視をすることで、どの部分に電力がかかっているかを確実に把握し、各印刷機の電源ON・OFFに時間差をつけることにより省エネ改善活動に注力しています。「自分たちでできる省エネ活動は何か」を考え、全社一丸となって取り組んでいくことが最も重要であると考えています。

各事業部の省エネルギー活動状況

竹田印刷は、省エネルギー活動を効率かつ効果的に推進しています。

2015年度は、中部事業部の本社社屋の照明器具全てをLEDに切り替え、また各トイレに人感センサーを取り付ける事により、省エネルギーへの効果が見込まれます。

関西事業部の八尾オフィスでは、老朽化した空調機の更新を行い、これまで以上に省エネ改善活動に注力しています。

「自らできる活動とは何か」を常に考え、全社一丸となり取り組むことが最も重要であると考えています。

エコカーの導入

CO₂の全排出量のうち20%を占める自動車。環境に優しいエコカーを選ぶことは、大気汚染問題や有害なガス排出対策としても非常に重要と考えます。竹田印刷ではエコカー導入を積極的に推進し、社長車をはじめ営業車へと順次導入を進めています。

その他のエネルギーの使用状況

その他のエネルギーに関しては、都市ガスについてデータ収集しています。今後も広い範囲でデータ収集を実施し、エネルギー全体の消費量を把握・管理できるようにしたいと考えています。

緊急時への準備対応

事故・緊急事態に対する対策

竹田印刷では、事故・緊急事態の可能性として「火事・爆発・漏洩(大気・水系・土壌)等」を想定し、発生した場合の環境への重大な影響(大気汚染・水質汚濁・土壌汚染等)を防ぎ、迅速に対応・処置するために「事故・緊急事態対応規定」を定めています。その中では、予防・初期処置及び対処に必要な設備・防災備品の設置のほか、連絡網の明示・模擬訓練の実施・発生時の基本行動について定めています。

万が一、事故・緊急事態が発生した場合、環境管理責任者及び事業部長に報告され、状況においては事業部長の判断により利害関係者にも報告されます。その後、発生原因と再発防止策を点検し、予防や訓練に不備がなかったか見直しを行います。

2015年度苦情・処置

2015年度における苦情・処置は発生しておりません。

印刷物製造上の環境対応

水なし印刷

通常のオフセット印刷では、刷版に露光・現像して画線部・非画線部をつくり、非画線部に「湿し水」を流し込み油が水をはじく性質を利用して画線部にのみインキがつくようになっています。しかし、その際に使われる湿し水には、IPA(イソプロピルアルコール=VOC揮発性有機化合物)や、H液(グリコールエーテル系の化学物質を含む)等の有害物質が多く含まれています。

それに対して水なし印刷は、非画線部にインキをはじく特性を持つシリコン層を使用することにより、画線部にのみインキが付着する仕組みとなっています。有害な湿し水を全く使用せず印刷を行うことができるので、廃液を出さず、環境に配慮した印刷方法といえます。

2015年度には、この水なし印刷方法で66件の印刷物を制作しました。



水なし印刷機

カーボンフットプリント

CO₂の見える化を促進するひとつの方法として誕生したカーボンフットプリントは、ライフサイクル全体の環境負荷を定量的に算定するLCA(ライフサイクルアセスメント)手法を活用し、製品(商品・サービス)の原材料調達から廃棄・リサイクルに至るライフサイクルにおける温室効果ガス排出量をCO₂量に換算し表示するものです。事業者だけではなく、消費者も一緒にCO₂排出量削減に向けて考え、取り組んでいくためのツールです。

事業者はサプライチェーンを構成する企業間で協力してさらなるCO₂排出量削減に努め、消費者は提供された情報を有効活用して低炭素社会を導くための方法となります。

竹田印刷では、積極的にCO₂排出量削減に取り組み、温室化対策を促進し、低炭素型の産業構造への変革の実現と、消費者自身の低炭素行動を促すことを目指しています。

カーボン・オフセット

カーボン・オフセットとは、市民、企業、NPO/NGO、自治体、政府等の社会の人々が自らの温室効果ガスの排出量を認識し、主体的にこれを削減する努力を行うとともに、削減が困難な部分の排出量について、他の場所で実現した温室効果ガスの排出削減・吸収量等を購入すること、または他の場所で排出削減・吸収を実現するプロジェクトや活動を実施すること等により、その排出量の全部または一部を埋め合わせることを言います。

カーボン・オフセットの取り組みに対する信頼性を構築する上での課題としては、以下の事項が挙げられます。

- ①オフセットの対象となる活動に伴う排出量を一定の精度で算定する必要がある。
- ②オフセットに用いられるクレジットを生み出すプロジェクトの排出削減・吸収の確実性・永続性を確保する必要がある。
- ③オフセットに用いられるクレジットのもととなる排出削減・吸収量が正確に算定される必要がある。
- ④オフセットに用いられるクレジットのダブルカウント(同一のクレジットが複数のカーボン・オフセットの取り組みに用いられること)を回避する必要がある。
- ⑤オフセットプロバイダーの活動の透明性を確保する必要がある。
- ⑥オフセットが、自ら排出削減を行わないことの正当化に利用されるべきではないとの認識が共有される必要がある。

これらを全て踏まえた上で、竹田印刷では、年々需要が高まるカーボン・オフセットに対応するため、温室効果ガスの排出量を算定できる仕組みを構築しています。今後も企業価値の向上と地球温暖化へ対応としてお客様に強くアピールしていきます。

※活動量の数値は検証されます。											
サブタイプ		プロセス番号、プロセス名	活動量			原単位		CO ₂ e			
区分	項目名	数値	単位	単位	区分	原単位	単位	単位	CO ₂ e		
DTP材料	紙(印刷用)	紙(印刷用)投入量	1,50E+04	kg	A1	基本	[B-JP20000]	1,77E+00	kg-CO ₂ e/kg	B1	2,68E+00
	その他	紙(印刷用)投入量	1,50E+04	kg	A2	基本	[B-JP20000]	1,77E+01	kg-CO ₂ e/kg	B1	4,32E+00
印刷材料	Pt(印刷用)	紙(印刷用)投入量	7,95E+03	kg	A1	印刷	[B-JP13000]	1,25E+01	kg-CO ₂ e/kg	B1	9,72E+00
	その他	紙(印刷用)投入量	1,47E+04	kg	A4	基本	[B-JP20000]	1,77E+01	kg-CO ₂ e/kg	B1	3,39E+04
印刷材料	紙(印刷用)	紙(印刷用)投入量	2,58E+03	kg	A5	基本	[B-JP10002]	1,30E+00	kg-CO ₂ e/kg	B1	3,43E+04
	その他	紙(印刷用)投入量	5,20E+07	kg	A6	基本	[B-JP20000]	1,77E+01	kg-CO ₂ e/kg	B1	2,91E+07
被印刷物	紙(印刷用)	紙(印刷用)投入量	2,04E+01	kg	A7	印刷	[B-JP30005]	1,77E+00	kg-CO ₂ e/kg	B1	3,61E+01
	その他	紙(印刷用)投入量	1,05E+03	kg	A8	基本	[B-JP20000]	1,77E+01	kg-CO ₂ e/kg	B1	6,00E+02
印刷材料	紙(印刷用)	紙(印刷用)投入量	1,00E+01	kg	A9	印刷	[B-JP10042]	4,52E+00	kg-CO ₂ e/kg	B1	4,79E+03
	その他	紙(印刷用)投入量	2,12E+06	kg	A10	基本	[B-JP20000]	1,77E+01	kg-CO ₂ e/kg	B1	1,21E+06
印刷材料	紙(印刷用)	紙(印刷用)投入量	1,00E+03	kg	A11	基本	[B-JP20000]	6,03E+01	kg-CO ₂ e/kg	B1	6,03E+04
	その他	紙(印刷用)投入量	5,00E+04	kg	A12	基本	[B-JP20000]	1,77E+01	kg-CO ₂ e/kg	B1	2,39E+04
印刷材料	紙(印刷用)	紙(印刷用)投入量	1,00E+03	kg	A13	基本	[B-JP20000]	2,37E+00	kg-CO ₂ e/kg	B1	2,37E+03
	その他	紙(印刷用)投入量	5,10E+02	kg	A14	印刷	[B-JP20000]	1,77E+01	kg-CO ₂ e/kg	B1	2,51E+02
印刷材料	紙(印刷用)	紙(印刷用)投入量	1,00E+03	kg	A15	基本	[B-JP20000]	1,83E+00	kg-CO ₂ e/kg	B1	1,46E+03
	その他	紙(印刷用)投入量	4,00E+04	kg	A16	基本	[B-JP20000]	1,77E+01	kg-CO ₂ e/kg	B1	2,26E+04
補正	紙(印刷用)	紙(印刷用)投入量	5,17E+03	kg	その他	基本	[B-JP20000]	1,00E+00	kg-CO ₂ e/kg	B1	5,17E+03
	小計										5,22E+01



環境活動

環 境

竹田印刷の環境認定状況

FSC森林認証

竹田印刷では2004年8月に、森林管理協議会(FSC:Forest Stewardship Council)の森林認証制度において生産・加工・流通工程の管理認証(CoC認証:Chain-of-Custody)を取得いたしました。これにより、商業印刷物のCSR/社会環境報告書、会社案内、カタログ等にFSC森林認証取得の用紙を使用した場合、FSC CoC認証マークを付けられるようになり、2015年度には221件の印刷物が制作されました。

FSC CoC認証

森林の認証とは、FSCの基準に基づいて、森林を管理している団体の活動内容等を、FSCによって認定された独立した第三者機関が評価することです。FSCには森林管理認証とCoC認証があり、当社はCoC認証を取得しています。

CoC認証の仕組み

当社が取得したCoC認証は、FSC森林管理認証された森林から伐り出された木材チップを用いて用紙が作られ、他の用紙と混入しないように、搬入・保管から印刷・製本加工・納品までの全工程が管理されていることを第三者機関が認めるものです。このため、認証された森林から木材または木材製品の所有権が移るごとに、関連する企業はCoC認証を取得する必要があります。

当社がCoC認証を取得していることで、FSC CoC認証マークの表示を要望するお客様に対し制作依頼を受けることができます。



竹田印刷は
FSC CoC認証取得企業であり、
左記のロゴマークを使用できます。

維持審査結果報告

2015年5月に既存の認証範囲について、FSCのCoC認証の原則と基準及び要求事項への適合状況が審査された結果、軽微な不適合が7件、観察事項が1件の指摘がありましたが、全てにおいて速やかに是正を終了し、認証が引き続き有効である事が確認されました。

グリーンプリンティング

この認定制度は、社団法人日本印刷産業連合会が認定機関となり、『日印産連「印刷サービス」グリーン基準』に基づき、客観的証明によりグリーンプリンティング認定を行う制度です。

竹田印刷では、本社工場、高辻工場の2工場が、グリーンプリンティング認定工場に認定されています。またデジタル印刷工程も対象として、より多くの環境配慮型印刷製品に取り組み、印刷環境基準とも整合性を持つよう配慮しています。

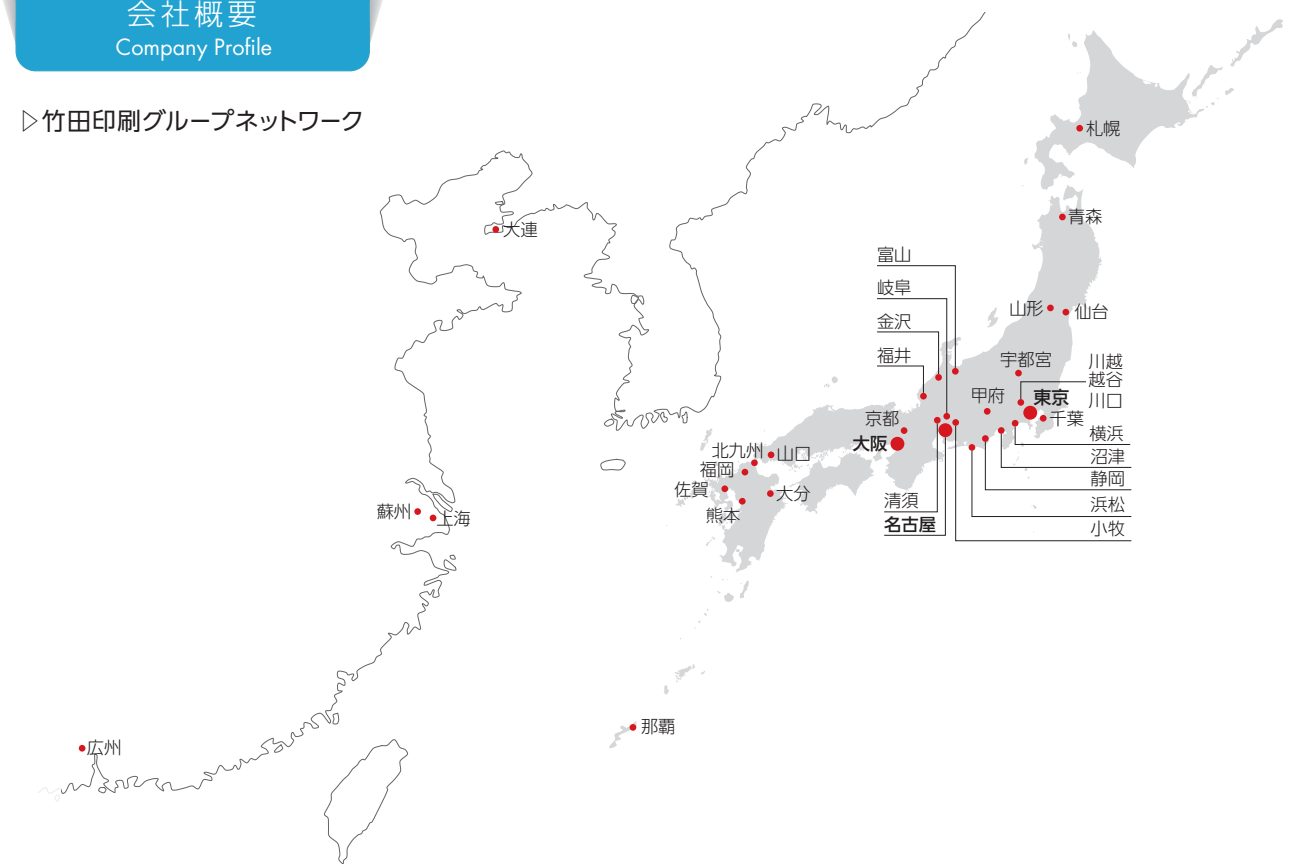
グリーンプリンティング認定制度に基づき、昨年度は2件認定されました。この結果を踏まえ、当社は今後も地球に優しい印刷製品作りを推進していきます。



印刷資材から製造工程までの全てで環境に配慮されていることを示すマーク。GP認定工場が製造し、印刷資材(紙、インキ等)が基準に適合した印刷製品に表示できます。

会社概要 Company Profile

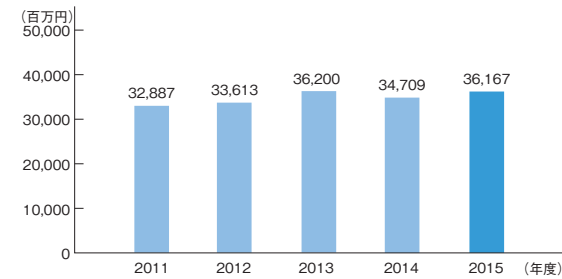
▷竹田印刷グループネットワーク



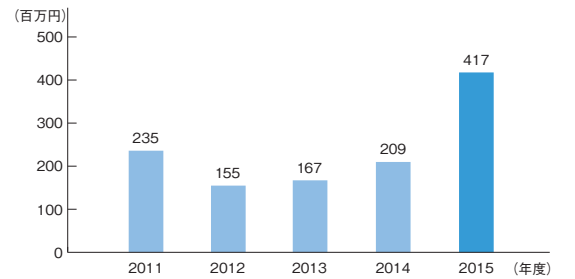
会社概要	事業所	竹田印刷グループ
社 名 竹田印刷株式会社 (英訳名 TAKEDA PRINTING CO.,LTD.) 本 社 名古屋市昭和区白金一丁目11番10号 創 業 年 月 1924年(大正13年)1月 設立年月日 1946年(昭和21年)11月16日 資 本 金 19億3,792万円 従 業 員 連結972名 単体594名 ※臨時従業員を含めず記載しています。 株 式 上 場 名古屋証券取引所第二部(証券コード7875) 単元株式数 100株 決 算 期 3月31日	■本社・中部事業部 本社工場 高辻工場 テクノセンター 物流センター スタジオACE1 小牧物流センター ■関東事業部 越谷工場、鳩ヶ谷工場 品川オフィス ■関西事業部 太田工場、大阪オフィス	株式会社光文堂 東海プリントメディア株式会社 株式会社プロセス・ラボ・ミクロン 日栄印刷紙工株式会社 株式会社光風企画 株式会社ウィルジャパン 株式会社共同販促 株式会社メディカルインテグレーション 上海竹田包装印務技術有限公司 大連光華軟件技術有限公司 富来宝米可龍(蘇州)精密科技有限公司 (2016年3月31日現在)

業績概要(連結)

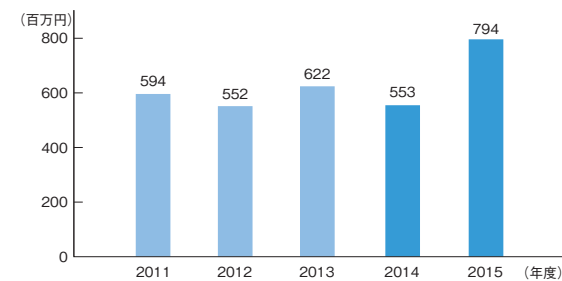
●売上高



●当期純利益



●経常利益



●従業員数 ※臨時従業員を含めず記載しています。

